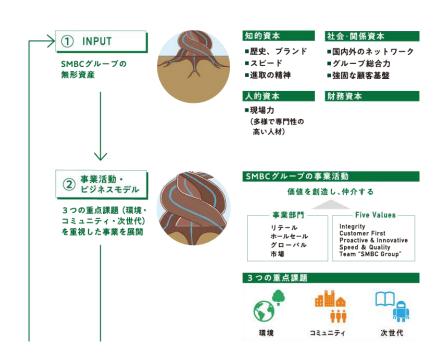
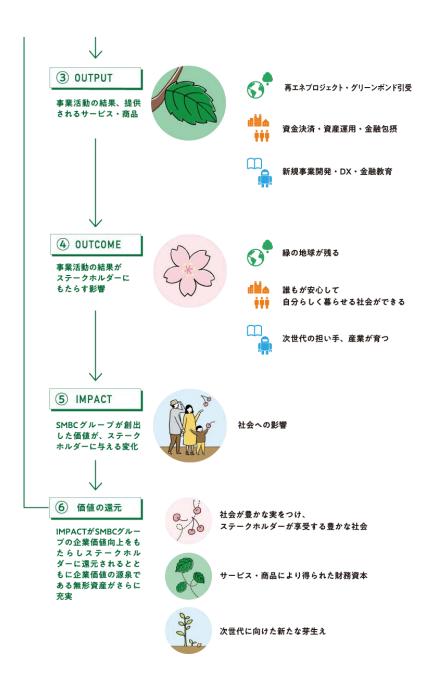
SMBCグループの価値創造プロセス

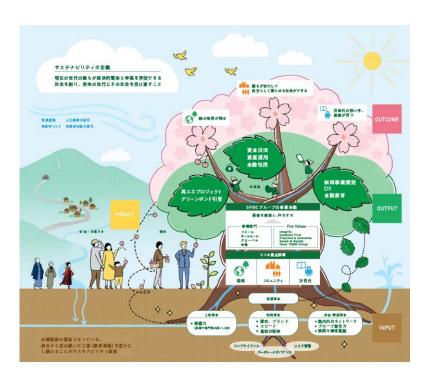
SMBCグループの価値創造プロセスでは、SMBCグループが重点課題を通じて事業活動を展開し、どのような価値を創出しながら、ステー クホルダーと共に発展していくのかを示しています。



SMBCグループの価値創造サイクル







SMBCグループ サステナビリティ宣言

我々、SMBCグループは、三井、住友にルーツを持つ企業グループとして、先達が重んじたサステナビリティへの意志を受け継ぎ、社会に おいて我々が重点的に取り組む課題を設定のうえ、サステナビリティの実現に向けて行動していきます。

サステナビリティの定義

我々は「サステナビリティ」を「現在の世代の誰もが経済的繁栄と幸福を享受できる社会を創り、将来の世代にその社会を受け渡すこと」 と定義します。

現状の認識と我々の役割

金融事業を営む者として、お客さまをはじめとするステークホルダーと対話し共に行動することにより、社会をより良いものへ変革するこ とに貢献していきます。

SMBCグループ サステナビリティ宣言 (6,341KB) PDF



2019年度ダイアログ①

「SMBCグループ サステナビリティ宣言」の内容および社内への浸透について(2019年9月5日)

SMBC グループは「SMBCグループ サステナビリティ宣言」に基づく2030年までの10年間の計画として「SMBC Group GREEN × GLOBE 2030」を策定しています。

SMBC Group GREEN×GLOBE 2030

2019年度ダイアログ②

社会課題解決のために、メガバンクグループが求められる社会的インパクトとは(2019年11月27日)

SMBCグループが重点的に取り組む課題

SMBCグループでは、「誰もが経済的繁栄と幸福を享受できる社会」を目指し、「環境」「コミュニティ」「次世代」を重点課題に設定し ています。

サステナビリティの実現



目指す社会にとって、健全な環境は前提、 コミュニティは潤滑油でありセーフティネット、 そして次世代は社会をより良いものにし次の世代に渡す存在。

SMBCグループとして取り組むべき重点課題(マテリアリティ)

「三井」「住友」の400年に亘るサステナビリティの実践

「サステナビリティ」は、我々の源流となっている三井、住友の先達たちが、400年以上にも亘り、連綿と経営の根底に据えてきた大義で あり、現在の我々の礎となっています。

三井の先達



浮絵駿河町呉服屋図 三井文庫所蔵

呉服商として、当時の商習慣にイノベーション をもたらし、新たなビジネスモデルを確立しま した。

また、江戸時代には両替商として、明治以降は 銀行として、日本そして世界の経済活動の基礎 となる金融インフラの重要な担い手となってき ました。

住友の先達



現在の別子山 住友林業株式会社所蔵



明治14年の別子山(旧製錬吹処之図) 住友史料館所蔵

銅製錬の技術革新により、日本を世界有数の銅 産出国にしました。

一方で、自社の荒れた銅山を憂い、植林により 、将来の世代に山の豊かな緑を、地域コミュニ ティに安心・安全な生活をもたらしました。

重点課題(マテリアリティ)

SMBCグループとして取り組むべき重点課題(マテリアリティ)

SMBCグループは、ステークホルダーからの要請に応え、社会課題の解決に貢献していくために、「環境」「コミュニティ」「次世代」を 重点課題に設定しています。また、SDGsが目標とする2030年を見据え、取り組むべき項目・課題を明確化し、活動しています。



環境への取組

基本的な考え方

SMBC Group



地球環境は、地域・世代を超えた人類共通の財産であり、健全な地球環境の維持は持続 可能な社会を実現する上での大前提であると考えています。SMBCグループでは、気候 変動をはじめとするさまざまな環境課題と向き合い、事業を通じて環境課題の解決に貢 献することで、将来の世代に豊かな地球を受け継ぐ努力を続けていきます。





気候変動対策ロードマップ・アクションプラン

気候変動への対応(TCFD提言への取組)

環境ビジネスの推進

環境リスクへの対応

環境負荷軽減への取組

SMBCグループグリーンボンド

コミュニティへの取組

基本的な考え方

SMBC Group



人々の生活や経済活動が行われる中で、それぞれの主体がつながりを感じ、助け合い、 安心して活動できるコミュニティが必要であると考えています。SMBCグループは、私 たち自身もコミュニティの中で活動を行う一員としての社会的責任を全うするため、地 域・社会への貢献を続けていきます。





GREEN×GLOBE Partners

安心・安全なまちづくりの実現

各種連携による社会包摂の推進

高齢社会対応に関する取組

次世代への取組

基本的な考え方



社会環境が変化していく中、経済や社会が持続可能であり続けるためには、必要な知識 や技術を備えた社会を支える人材の育成が不可欠であると考えています。SMBCグルー プは、私たちとともに将来の社会を構築していく、次世代の人材や産業を育むことでサ ステナビリティを実現していきます。







成長産業分野への支援

金融リテラシー教育の推進

重点課題(マテリアリティ)の特定プロセス

SMBCグループは、常に変化する社会動向やステークホルダーにおける重要度を踏まえ、2013年度に従来の優先課題を見直し、中長期 的な重点課題として、新たに「環境」「コミュニティ」「次世代」の3テーマを特定しました。

特定にあたっては、GRIガイドライン(G4)のフレームワークも活用し、グループ各社参画のもと、さまざまな社会課題の中から優先 順位付けを行いました。併せて有識者ダイアログを実施し、ステークホルダーにおける重要度も検証しています。

この3つの重要課題について、社内外のステークホルダーとのエンゲージメントを実施し、重点課題および重点課題に応じて取り組む べき項目についてレビューを行い、グループ各社での取組強化につなげています。

ステップ.1 課題抽出・優先順位付け ステップ.2 有識者ダイアログによる 検証・特定

ステップ.3 当社グループ経営層への 報告・承認

ステップ.4 エンゲージメントによる レビュー

- ∨ ステップ1 課題の抽出・優先順位付け
- ∨ ステップ2 有識者ダイアログによる検証・特定
- ∨ ステップ3 当社グループ経営層への報告・承認
- ∨ ステップ4 エンゲージメントによるレビュー

ステップ1

課題の抽出・優先順位付け

GRIガイドライン(G4)やISO26000のフレームワークを活用し、当社グループ各社参画のもと、約150のCSR課題を網羅的に抽出しまし た。これらの課題についてはステークホルダーの視点を踏まえて相対的に優先順位付けを行い、「中長期的な重点課題(環境、コミュニテ ィ、次世代)」と「盤石な経営基盤に不可欠な取り組み課題」に整理しました。

優先順位付けにおける参考基準

ステークホルダーにおける重要性

- GRIガイドライン(G4)などの国際的なフレームワーク
- SRI調査項目や指摘
- サステナビリティ推進委員会戦略アドバイザーからの指摘

SMBCグループにおける重要性

- グループ10社(当時)からの重点課題
- 経営理念、SMFG中期経営計画との適合性
- サステナビリティ推進におけるリスクと機会(企業価 値向上)の考慮

ステップ2

有識者ダイアログによる検証・特定

2014年2月、「中長期的な重点課題(環境、コミュニティ、次世代)」と「盤石な経営基盤に不可欠な取り組み課題」において、考慮・認 識すべき課題にズレや不足がないか、社会性、環境、グローバル課題の視点で検証するため、有識者の皆さまとのダイアログを実施しまし た。その後、いただいたご意見をもとに課題の修正を行い、SMFGとして取り組むべき重点課題について有識者のご了解を得て特定しまし

ステップ3 当社グループ経営層への報告・承認

2014年3月、SMFGとして取り組むべき重点課題について、サステナビリティ推進協議会・サステナビリティ推進委員会を経て、当社グルー プの経営会議において承認を得ました。また社内外のステークホルダー、グループ各社とのディスカッションを通じたレビューを交え、具 体的な取組手法を検討することについても承認を得ました。

ステップ4 エンゲージメントによるレビュー

2014年7月以降、社内研修時の従業員アンケートや、SMBCグループとして取り組むべき重点課題を掲載したCSRレポートでの社外アンケー トなどを通じて、社内外の意見を収集しました。その他、ステークホルダーの皆さまとの対話を通じ、時代に合わせて取り組むべき課題の 見直しを図っています。

2019年9月および11月、「SMBCグループ サステナビリティ宣言」の策定にかかるステップとしてダイアログを実施し、有識者より重点課 題に対するレビューを受けました。

| 2015年度 | 「10年後のありたい姿」を実現するために |
|--------|---|
| 2016年度 | 重点課題(マテリアリティ)において「取り組むべき項目」の妥当性検証 |
| 2017年度 | SDGsおよびESG投資に関する、金融機関への期待と役割について |
| 2019年度 | 「SMBCグループ サステナビリティ宣言」の内容および社内への浸透について (2019年9月5日) |
| | 社会課題解決のために、メガバンクグループが求められる社会的インパクトとは(2019年11月27日) |

ステークホルダー・エンゲージメントの詳細は、下記をご参照ください。

ステークホルダー・エンゲージメント

SMBC Group GREEN×GLOBE 2030

SMBC グループは「SMBCグループ サステナビリティ宣言」に基づく2030年までの10年間の計画として「SMBC Group GREEN × GLOBE 2030」を策定しています。

基本コンセプト

「お客さまとともに、人と地球の未来を創る」

名前に込められた想い

計画名の"GREEN"は当社のコーポレートカラーと環境、"GLOBE"は地球、国境のない世界を表しており、それらを"×"で繋ぐことで足し算 ではない掛け算での広がりを表しています。

| GREEN | (環境・コーポレートカラー) |
|-------|----------------|
| x | (広がり) |
| GLOBE | (地域・国境のない世界) |
| 2030 | (SDGs目標期限) |

計画の柱および10年間のKPI

2020年4月に策定した「SMBC Group GREEN×GLOBE 2030」では、大きく3つの柱ならびに一部の施策について長期目標(KPI)を掲げて おり、KPIは随時アップデートを行っています。



| 計画の柱 | 10年間のKPI |
|------------------------------------|--|
| | ● 2020年度から2029年度のグリーンファイナンス及びサステナビリティに資するファイナンス*1 実行額30兆円 (うちグリーンファイナンス20兆円) |
| サステナビリティの 実現に向けた お客さま・社会への収組 | ● 2020年度から2029年度の金融経済教育等への参加者数150万人 |
| | 最低年1回、社会貢献活動等に関する社会的インバクト評価を実施し結果を公表する |
| サステナビリティ経営を | ● 担当者、お客さまのSDGs等に関する認知度や社会課題の解決に関する対話の実行状況を アンケートで計測する |
| 支える社内の取組 | ● SMBCグループが排出する温室効果ガス (GHG) **2を2030年において実質ゼロ**3にする |
| | **1 企業のトランジションを資金使速とするファイナンスや社会事業を資金使速とするファインナンスを含む **2 Scope1及びScope2 **3 事業活動で使用する電力について、非化石証書活用による再生可能エネルギー由来電力への切替等の施策により、GHG排出量を削減することを基本とする。削減しされない排出量については、クレジットの騰入等によりオフセットすることで、正味での排出量を包にする。 |

進捗報告

2021年度

ESGデータブック:P3 💬

社会的インパクト評価の結果は、以下のリンク先をご覧ください。

2021年度 社会的インパクト評価報告

2020年度

統合報告書・ディスクロージャー誌2021:サステナビリティの実現に向けた取組 P87 PDB

社会的インパクト評価の結果は、以下のリンク先をご覧ください。

2020年度 社会的インパクト評価報告

2021年度 社会的インパクト評価報告

2021年度は、昨年に引き続きSMBCグループにおける社会貢献活動の中核と位置づけられる「PROMISE 金融経済教育セミナー」を評価の 対象事業として、社会的インパクトを可視化する社会的インパクト評価を実施しました。SMBCグループとして注力する金融経済教育を通 じて、受講者のお金に関する学びや意識・行動の変化といった社会的インパクトを創出できているのか、客観的に分析し、より効果的なプ ログラムにしたいと考え、本セミナーを対象事業に選定しました。なお、本件評価は、特定非営利活動法人ソーシャルバリュージャパンが 実施しました。

今回の取組を通じて得られた知見や気付きを踏まえ、より効果的なプログラム作りを進めていきます。

2021年度「PROMISE 金融経済教育 セミナー」社会的インパクト評価報告書 (2,862KB) ₽DF

- Ⅰ.「PROMISE 金融経済教育セミナー」社会的インパクト評価 概要 📭
- Ⅱ. 「PROMISE 金融経済教育セミナー」社会的インパクト評価 分析結果 🕮
- Ⅲ. 「PROMISE 金融経済教育セミナー」社会的インパクト評価 考察 PDF

Appendix ①(1,868KB)

Appendix 2 (1,331KB)

質問票 (180KB) PDF

1.評価サマリー

2020年度社会的インパクト評価を通して有効性が確認されたロジックモデルに基づき、全国11校、合計1,500名以上の受講者の高校生から のアンケート調査と、抽出した参加者へのインタビューに対して、プログラムを受講しない対照群の高校生からの回答と比較する形で評価 を実施し、これまで120万人以上が参加した本事業全体の社会的インパクトを推計した。本年度評価から得られた知見の概要は、以下の通 りである。

社会的インパクト評価から得られた知見

1. 事業実施による金融リテラシー向上の効果確認

客観的金融リテラシー(金融リテラシー・マップ分野)は、セミナー受講によりスコアが有意に向上しており、本事業による客観的金融リ テラシーへのインパクトがあったと言える。また、本事業による客観的金融リテラシー向上は、高校1年生、一般校、専門学科において高 い効果が期待できる。

主観的金融リテラシーは類似条件の受講群と未受講群の比較において、受講群においてスコアが向上傾向にあった。また、本事業による主 観的金融リテラシー向上は、高校1年生、専門学科、女子学生において高い効果が期待できる。

2. プログラム・コンテンツの適切性の確認

本事業が高校生に提供している「生活設計・家計管理プログラム」、「ローン・クレジットプログラム」、「金融トラブルプログラム」、 それぞれのプログラムと対応する金融リテラシー・マップ及び行動特性・考え方の多くの分類においてスコアが向上していたことから、プ ログラム・コンテンツは適切に効果を発揮していると言える。

3. 受講者である高校生の金融経済への高い関心

定性調査の結果から、セミナー受講により、学校において金融経済を学ぶことの重要性について考える学生や、様々な金融経済分野に関す る関心を持つ学生が増えたことから、本事業は高校生の金融経済への関心喚起に効果があると言える。

2.対象事業の概要

PROMISE 金融経済教育セミナー

事業主体

SMBCコンシューマーファイナンス株式会社

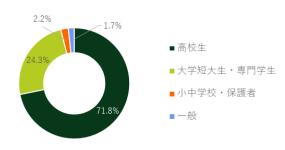
事業内容

お客様サービスプラザもしくは地域の学校にて、無料の金融経済教育セミナーを行い、未来を担う学生や地域の方々が、お金に関する正し い知識を習得するとともに、適切な判断ができるよう支援する

実績

累計受講者数 120 万人以上(2011年~2022年1月)

【受講者の属性】



SMBCコンシューマーファイナンス 金融経済教育への取り組み 🗗

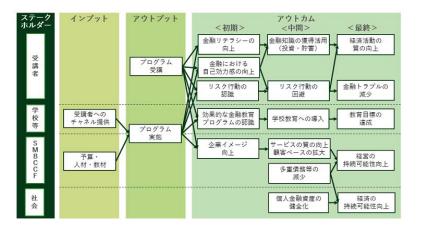
3.本社会的インパクト評価の概要

● 金融経済教育がもたらす社会的インパクト

- ・期待される社会的インパクトは下記の通り(1~3に関しては金融経済教育研究会報告書より)。
- 1.生活スキルの向上と家計の健全性の実現
- 2.金融サービスの質の向上
- 3.日本の資産形成の仕組みを変え経済成長に必要なリスクマネーを供給する
- 4.金融トラブルへの対応力の向上・予防

想定されるロジックモデル

・先行研究やプログラム資料から、想定される金融経済教育の社会的インパクトを示すロジックモデルは以下を想定した。



● 実施概要

・2021年度評価においては、事業が対象とする参加者層のうち、主なセグメントである高校生に対する調査を評価精度を向上させ実 施し、プログラムがもたらす社会的インパクトを推計した。

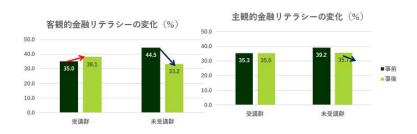
| 项目 | 概要 |
|------|---|
| 評価名 | 高校生に対する金融経済教育セミナーの社会的インパクト評価 |
| 対象者 | a. セミナー受護群:PROMISE 金融経済教育セミナーを受護する高校生(以下、受護群とする) b. セミナー未受護群:PROMISE 金融経済教育セミナーを未受護の高校生(以下、未受護群とする) |
| 評価手法 | アンケートによる調査:セミナー受護者に加えて、同様なプロファイルのセミナー未受護者を対照 群として設定(上記り)、ウェブ回答・紙での回答の両方を実施 インタビューによる調査:セミナー受講者にインタビューを実施 |
| 評価概要 | セミナー受護者の初期アウトカム(金融リテラシー、行動特性・考え方、自己効力感)を測定 受護者へのインパクトを評価するために、受護者・未受護者に対して金融リテラシーの知識・理解医金融に関する行動・考え方、自己効力感に関する質問票調査を実施 回収した質問票に基づいて、プログラム受護制後による評価項目の変化や、セグメント分析(学校属性・受護プログラム・性例)を実施、どのような受護者に対してどのようなコンテンツの実施が初期アウトカムに変化を促すかについて評価を行った 受護者へのインタビューを実施し、定性データを取得 行った評価に基づいて、継続的な社会的インパクト評価の実施と今後のコンテンツ開発に有用な事業概率を実施 |

4.本社会的インパクト評価の主な分析結果

● 金融リテラシーのセミナー受講による変化

・客観的金融リテラシー及び主観的金融リテラシーのセミナー受講による変化を、受講群全体、未受講群全体にて比較したところ、 受講群は向上し、未受講群は減少した。

【金融リテラシーの変化(事前・事後)】



● 金融リテラシー・マップのセミナー受講による変化

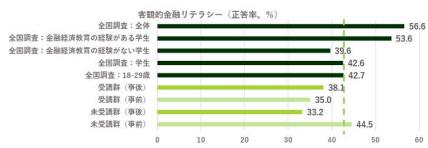
【金融リテラシー・マップの変化量(事前・事後)】



「金融リテラシー調査 2019年」との比較

・客観的金融リテラシーについて、「金融リテラシー調査 2019年」(金融広報中央委員会)の結果と比較した。受講群・未受講群の 事後スコアは、全国調査の学生スコアよりも低い傾向にあるが、全国調査の学生は大学生を含む18歳以上であり、今回の調査対象が 金融や経済の基本知識が定着していない15歳から18歳の高校生である点を鑑みると、年齢相応の結果であると推測される。

【客観的金融リテラシーの全国調査との比較】

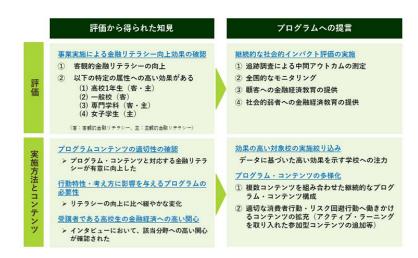


参考データ:「金融リテラシー調査 2019年」(金融広報中央委員会)

| 属性 | 客観的金融リテラシー(正答率、%) |
|---------------------|-------------------|
| 全国調査:全体 | 56.6 |
| 全国調查:18-29歳 | 42.7 |
| 全国調査:学生 | 42.6 |
| 全国調査:金融経済教育の経験がある学生 | 53.6 |
| 全国調査:金融経済教育の経験がない学生 | 39.6 |

5.考察

● 2021年度社会的インパクト評価から得られた知見と、2022年度以降のPROMISE 金融経済教育セミナーへの提言は以下の通りである。



SMBCグループ 環境・社会フレームワーク

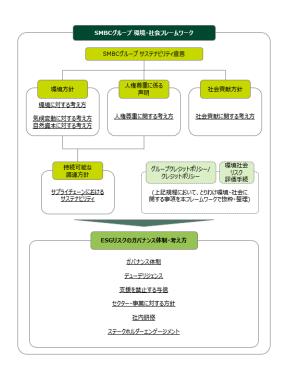
SMBCグループ 環境・社会フレームワーク

SMBCグループは、環境・社会に対するアプローチを包括的に示し、持続可能な社会の実現に貢献する姿勢を明確にするため、「SMBCグル ープ 環境・社会フレームワーク」を制定しています。

このフレームワークは、当社グループの環境・社会に関する社内規程を一元化したものであり、経営会議を経て制定・公表しました。内包 される個別規程の改廃、サステナビリティ委員会をはじめとする各会議体での審議、外部環境や当社グループの事業活動の変化、内部監査 による定期的な(原則、年1回以上)レビュー結果などを踏まえ、プロアクティブに見直しを実施します。

なお、本フレームワークで表明しているスタンス・考え方は、SMBCグループ全体としてのものであり、特定のグループ会社等は、本フレー ムワークをそれぞれのビジネスに応じた形で導入しています。

SMBCグループ 環境・社会フレームワーク PDF



サステナビリティ経営体制

SMBCグループのサステナビリティ経営体制

SMBC Group

SMBCグループでは、取締役会メンバーである企画担当役員の**グループCSO**や、グループ全体のサステナビリティ経営を統括する**グループCSO**(Chief Sustainability Officer)のもと、グループベースで機能・知見を集約した「サステナビリティ本部」を設置し、コーポレート・ビジネス両面の企画・推進を行 っています。

グループにおけるサステナビリティ経営の浸透に関する事項やサステナビリティを推進するために必要な諸施策については、グループCEOを委員長とする「サ ステナビリティ推進委員会」にて協議しています。また、取締役会の内部委員会である「サステナビリティ委員会」や「リスク委員会」へグループCSuO・グル ープCROが定期的に報告を行う等、ガバナンス・経営管理体制の高度化を図っています。

SMBCグループでは、サステナビリティ経営を加速すべく、役員等の報酬体系にもESGへの取組を定性指標として組み込んでいます。



SMBCグループの事業とSDGs

SDGsとは

SDGsは「Sustainable Development Goals」の略で、「持続可能な開発目標」を表します。2015年9月の国連サミットにおいて全会一致で 採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に掲げられた国際目標です。2030年までに「誰ひとり取り残さない」社会を実現 することを目指しており、下記の17の目標(ゴール)と、更に細分化された169のターゲットから構成されています。



SMBCグループにおけるSDGs

SMBCグループは2018年、「環境」「コミュニティ」「次世代」の3つの重点課題に対応するかたちで、注力するSDGs項目を選定しまし た。世界中に存在する様々な社会課題に対し、グローバル金融グループとしての使命を果たすべく、経営トップの強いコミットメントの 下、事業を通じた社会的課題の解決とSDGsの実現を目指していきます。



SMBCグループとして取り組むべき重点課題(マテリアリティ)

ESG/SDGsに関連したSMBCグループの主な商品・サービス

SMBCグループは、本業を通じた環境・社会課題の解決に積極的に取り組んでいます。

グリーン/ソーシャル/サステナビリティローン

SMBC

グリーン/ソーシャル/サステナビリティローン(以下、「本ローン」)は、資金使途を、環境や社会課題の解決に資する事業に特定した

近年、資金使途を環境面に配慮した事業への用途に限定した「グリーンローン」、社会面に配慮した事業への用途に限定した「ソーシャル ローン」、及び環境・社会面の双方に配慮した事業への用途に限定した「サステナビリティローン」が国際的に注目されています。

本ローンでは、対象となる事業について、国際金融業界団体のLMA、LSTA、APLMAが公表している「グリーンローン 原則」、「ソーシャ ルローン原則」及び国際資本市場協会(ICMA)の「サステナビリティ・ボンド・ガイドライン」に基づき、所定のファイナンス要件を充足 していることを確認するとともに、お客さまと連携しながら、外部評価機関から評価を取得します。

グリーン/ソーシャル/サステナビリティローン 🔮

%1 LMA (Loan Market Association)

英国のローンマーケット協会を指す。ヨーロッパ、中東、アフリカ地域のローン市場の拡大等を促進することを目的に1996年設立。

***2** LSTA (Loan Syndications and Trading Association)

北米のシンジケートローン市場の発展と運営を強化するために存在する金融サービス業界団体。

※3 APLMA (Asia Pacific Loan Market Association).

アジア太平洋地域のアジア・パシフィック・ローンマーケット協会を指す。アジア太平洋地域のローン市場の拡大等を促進することを目的に1998年に設立。本部は 香港。

※4 国際資本市場協会 (ICMA)

持続可能な経済の成長と発展に必要な安定的な資金提供が行われるよう、国際債券市場の健全性を保ち、機能的な、世界を一貫できるクロスボーダー債券市場を促 進することを目的として1968年に欧州にて設立。

※5 所定のファイナンスの要件

当行におけるグリーン/ソーシャル/サステナビリティファイナンスの要件を指し、「グリーンローン原則」、「ソーシャルローン原則」、「サステナビリティボン ド・ガイドライン」に基づきます。具体的には以下の要件になります。

(1)以下4つの要件を満たすこと。

- ①調達資金の使途
- ②プロジェクトの評価と選定のプロセス
- ③調達資金の管理
- ④レポーティング
- (2)外部評価機関から評価を取得していること。

※6 外部評価機関

以下3社と連携しています。今後順次連携先を拡大予定です。

- ●株式会社日本格付研究所
- ●株式会社格付投資情報センター
- ●株式会社日本総合研究所

サステナビリティ・リンク・ローン

SMBC

サステナビリティ・リンク・ローン(以下、「SLL」)は、借り手のサステナビリティ・パフォーマンスの向上を促すために、借り手の ESG戦略と整合した取組目標(サステナビリティ・パフォーマンス・ターゲット/以下「SPTs」)を設定し、SPTsの達成状況に応じて、借 入人にインセンティブやディスインセンティブが発生するローンです。

国際的な指針である 「サステナビリティ・リンク・ローン原則」によりSLLのフレームワークが制定されており、本商品は同原則に沿った 設計となっています。

サステナビリティ・リンク・ローン 🌁

環境配慮型住宅(ZEH)を対象とした住宅ローン

SMBC

ZEH(ゼッチ)とは「net Zero Energy House」の略であり、ZEH推進はカーボンニュートラルの実現に向けた具体的な取組の一つとして 位置づけられています。三井住友銀行では、ZEHを対象とした住宅ローンについて特別な金利をご提供することで省エネ化・脱炭素化に向 けた推進を支援しています。

SMBC Green プロジェクト 住宅ローン 💣

SDGs債

SMBC Nikko

SDGs債とは、調達資金がSDGsに貢献する事業に充当される債券等のことを指します。SDGsの中でも環境・社会へのポジティブなインパク トを有し、国際資本市場協会ICMAが公表する各種原則・ガイドライン等の一般的にスタンダードとして認められている原則に沿った債券 や、事業全体がSDGsに貢献すると考えられる機関が発行し、インパクト(改善効果)に関する情報開示が適切になされている債券が含ま

グリーンボンド

グリーンボンドは、地球温暖化対策や再生可能エネルギーなど、環境分野への取り組みに特化した資金を調達するために発行される債券の ことです。

ソーシャルボンド

ソーシャルボンドは、国際資本市場協会が策定したソーシャルボンド原則に沿って、衛生・福祉・教育などの社会課題の解決に資する事業 に要する資金を調達するために発行される債券のことです。

SMBC日興証券における引受実績は、下記のリンクよりご覧いただけます。

SDGs債等の引受 🖥

ESG投資

SMBC Nikko

ESG投資は、運用プロセスにおいて、財務内容等の評価に加えて、環境(E:Environment)、社会(S:Social)、ガバナンス(G: Governance) を考慮する投資手法です。SMBC日興証券が取り扱うESG、SDGs関連ファンドは下記のリンクよりご覧いただけます。

サステナブル関連ファンド 🗗

地球にやさしいカード

SMBC Finance Service

「地球にやさしいカード」は、「ごく普通に使うだけで、地球のために寄付できる」をコンセプトにしており、カード会員さまのご負担な くSMBCファイナンスサービスからご利用金額の0.5%が自動的に(公財)緑の地球防衛基金を通じて保護・研究団体へ寄付されるカードで

地球にやさしいカードは、1991年より発行しており、2021年度の寄付額は約1,200万円、累計寄付総額は約7億8,600万円となっています。

地球にやさしいカード 🖥

アトムカード

SMBC Finance Service

「アトムカード」は、"子どもたちの夢を形にする""子どもたちの未来づくりに何らかの役に立ちたい"という手塚治虫先生の想いが込めら れており、カードのご利用金額の 0.3%が寄付される社会貢献型のクレジットカードです。2021年度の寄付額は約214万円、累計寄付総額 は約6,026万円となっています。

アトムカード 🖥

| 法人向け | | |
|---|----------------------|--|
| SDGsグリーン/ソーシャル/サステナビリティローン ₫ | SMBC | |
| サステナビリティ・リンク・ローン 🗗 | | |
| ポジティブ・インパクト金融原則適合型ESG/SDGs評価型資金調達、SDGs推進資金調達 ₽ | | |
| ESG/SDGs 評価融資/私募債 | | |
| SDGs 推進融資/私募債 | | |
| SMBC環境配慮評価型資金調達/私募債 | | |
| SMBC食·農評価融資/私募債 | SMBC | |
| SMBC働き方改革融資/私募債 🗗 | SMBC | |
| SMBCなでしこ融資/私募債 🗗 | SMBC | |
| SMBC事業継続評価融資/私募債 🗬 | SMBC | |
| 東京都政策特別融資『三井住友銀行 経営基盤強化「SDGs経営計画策定支援」』 🜓 | SMBC | |
| SMBC-ECO□−ン T | SMBC | |
| SDGsリース 『みらい2030 [®] 』 🖥 | SMFL | |
| | JRI | |
| グリーンボンド | SMBC Nikko | |
| ソーシャルボンド 🖥 | SMBC Nikko | |
| SDGs magazine | SMBC | |
| SDGs入門 all and an | JRI | |
| 1冊で分かる!ESG/SDGs入門 | JRI | |
| ビジネスパーソンのための ESGの教科書 英国の戦略に学べ 🖥 | JRI | |
| ビジネスパーソンのための SDGsの教科書 🗗 | JRI | |
| 行職員のための 地域金融×SDGs入門 🖥 | JRI | |
| 図解SDGs入門 🗗 | JRI | |
| 個人向け | | |
| SMBC個人型プラン(みらいプロジェクトコース) 🖥 | SMBC | |
| 世界インパクト投資ファンド《愛称:Better World》 🌓 | SMBC | |
| | 三井住友DS | |
| SMBC・アムンディ クライメート・アクション 🌓 | SMBC | |
| グローバルSDGs株式ファンド 🖥 | SMBC Nikko 三井住友DS | |
| 個人向け国債『SMBCグリーンプログラム』 🖥 | SMBC | |
| ブラックロック・ガバナンス・フォーカス・ファンド 🗗 | SMBC Nikko | |
| シュローダー・アジアパシフィック・フォーカス・ファンド 🕝 | SMBC Nikko | |
| SMBC・日興世銀債ファンド 🖥 | SMBC Nikko | |
| 日興エコファンド 🖥 | SMBC Nikko | |
| 日興フロッギー 🖥 | SMBC Nikko | |
| ロボアドバイザー 🗗 | SMBC Nikko | |
| 地球にやさしいカード 🗗 | SMBC Finance Service | |
| アトムカード 🖥 | | |
| 金融教育アプリ「ハロまね」 💣 | SMCC | |
| ファミリーバトン 🗗 | SMBC Trust | |
| スマート相続口座 🖥 | SMBC Trust | |

商品・サービス関連トピックス

| 2021年4月30日 | キンキ道路株式会社に「SMBC働き方改革融資」を実施 |
|------------|---------------------------------|
| 2021年4月30日 | 東洋炉ホールディングス株式会社に「SDGS推進融資」を実施 |
| 2021年4月30日 | 株式会社大森屋に「SDGS推進融資」を実施 |
| 2021年4月30日 | 株式会社千代田組に「SDGs推進融資」を実施 |
| 2021年4月30日 | 株式会社山﨑砂利商店に「SDGS推進融資」を実施 |
| 2021年4月30日 | 阪本薬品工業株式会社に「SDGS推進融資」を実施 |
| 2021年4月30日 | 株式会社日本オーエー研究所に「SDGS推進融資」を実施 |
| 2021年4月30日 | 医療法人景雲会に「SDGS推進融資」を実施 |
| 2021年4月30日 | 株式会社ラミーコーポレーションに「SDGS推進融資」を実施 |
| 2021年4月30日 | ポエック株式会社に「SDGs推進融資」を実施 |
| 2021年4月30日 | フジクス株式会社に「SDGs推進融資」を実施 |
| 2021年4月30日 | 株式会社コスモスイニシアに「SDGs推進融資」を実施 |
| 2021年4月30日 | 株式会社ケントメディカルケアに「SDGS推進融資」を実施 |
| 2021年4月30日 | IMV株式会社に「SDGs推進融資」を実施 |
| 2021年4月30日 | ロザイ工業株式会社に「SDGS推進シンジケーション」を実施 |
| 2021年4月30日 | 株式会社アドバンテックに「SDGS推進シンジケーション」を実施 |
| 2021年4月30日 | 三和油化工業株式会社に「ESG/SDGs評価融資」を実施 |
| | |

ニュースリリースへ

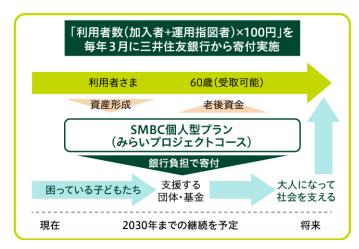
プロジェクト事例 ※所属や肩書は取組当時のもの

SMBC個人型プラン(みらいプロジェクトコース)



じぶんのための「つみたて投資」が国内の子どもの援助にもつながる

資産形成制度であるiDeCo(イデコ)を通じて ESG投資の普及と次世代層の拡大を目指す「SMBC個人型プラン(みらいプロジェクトコー ス)」



少子高齢化が進行する日本において、多くの方が「老後への備え」を目的とした資産形成に取り組んでいます。 iDeCo(イデコ) は効率的に老後資金を準備することができる制度であり、利用される方も増加しています。 三井住友銀行は、資産形成が持続的な社会の発展に繋がる仕組みとして2019年9月に「SMBC個人型プラン(みらいプロジェクトコース」 取り扱いを開始しました。

プロジェクト開発部署

三井住友銀行

コンサルティング業務部、職域ソリューション部

「サステナビリティ・2025万博」プロジェクトチーム発足

企業経営・国づくりにおいて、サステナビリティの観点から事業戦略の見直しを図る等、社会・環境への貢献と経済成長を両立させようと する動きが活発化しています。また、2025年にはSDGsをテーマとする万博が大阪で開催される予定であり、関西を中心にSDGs達成に向け た取り組み機運が高まっています。今後、国・自治体・企業等がサステナビリティ・SDGs達成に向けた取り組みを積極的に行うことで、関 西経済、ひいては日本経済への活性化が期待できます。

そこで当社は、持続可能な社会の実現や、関西・日本経済活性化に貢献する「サステナビリティ・2025万博」プロジェクトチームを組成し ました。 本プロジェクトチームでは、サステナビリティやSDGsに関連する商品開発や企業向け研修等の豊富な実績を基に、それらが経 済に与える影響ついて精緻な分析を行いながら、政策提言やコンサルティング活動を行っていきます。

「サステナビリティ・2025万博」プロジェクトチーム発足について ┛

サステナビリティ経営 🗗

シンポジウム(YouTube映像)

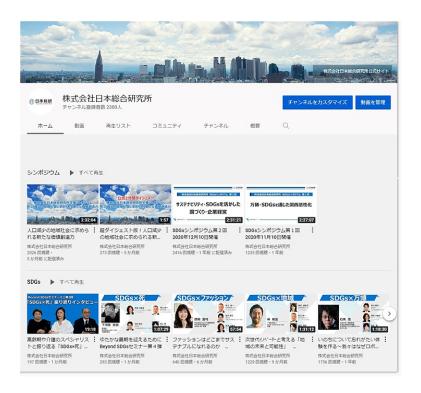
【SDGsシンポジウム第1回】『万博・SDGsを通じた関西活性化』』

【SDGsシンポジウム第2回】『サステナビリティ・SDGsを活かした国づくり・企業経営』』

【Beyond SDGsシリーズ第1弾】SDGs×万博 いのちについて忘れがたい体験を作る 〜我々はなぜロボットに共感するのか〜🗗

【Beyond SDGsシリーズ第2弾】SDGs×万博 SDGs×地方 次世代イノベーターと考える「地域の未来と可能性」 🗗

【Beyond SDGsシリーズ第3弾】SDGs×万博 SDGs×ファッションファッションはどこまでサステナブルになれるのか 🗗



著書関連

図解SDGs入門 AT 行職員のための 地域金融×SDGs入門 ₽ SDGs入門 🖥

プロジェクトチーム

日本総合研究所

調査部 創発戦略センター リサーチ・コンサルティング部門

GREEN×**GLOBE** Partners

【Beyond SMBC Group GGPムービー】



Beyond SMBC Group:#6 環境・社会課題解決の「意識」と「機会」を流通させて社会変革を実現するコミュニティ

GREEN×GLOBE Partners (GGP) は、三井住友フィナンシャルグループが運営する環境・社会課題解決のためのコミュニティです。一社だ けでは解決できない環境・社会課題に対して、ともに考え、仲間を見つけ、アクションの起点となるために活動しています。

パーパス

『環境・社会課題解決の「意識」と「機会」を流通させる』

活動/インパクト/活動事例

1. GGPは環境・社会課題解決に関する情報を事業者・生活者に広く発信し、意識醸成・理解度向上を支援しま す。

ーインパクト

環境・社会課題解決への貢献に意欲を持つ事業者、生活者が増加します。

- 活動事例

サステナビリティに関する記事の配信やイベントを開催しています。



まちづくりと地域経済から考えるサステナビリティ"サステナビリティ×コミュニティ"シリーズ | GREEN×GLOBE Partners (ggpart ners.jp)

その他、最新事例は**こちら**

2. GGPは環境・社会課題解決に取組む事業者の幅広いネットワーク作りと共創を支援します。

- インパクト

環境・社会課題解決の種が産まれる機会が増加します。

- 活動事例

環境・社会課題解決のアイデアを共創するワークショップを開催しています。



その他、最新事例は**こちら**

3. GGPは環境・社会課題解決の種がやり取りされ、芽吹くための持続的な仕組み作りを支援します。

- インパクト

環境・社会課題解決に必要な活動や関係者が増加します。

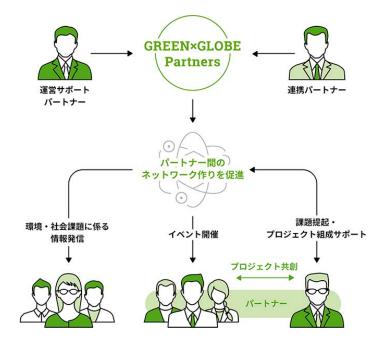
- 活動事例

パートナー企業による環境・社会課題解決のプロジェクトづくりを支援します。



GGP-based Project「播州織の未来を考える」始動 一北播磨とテキスタイルの関係をアップデートするワークショップ開催 | GREE N×GLOBE Partners (ggpartners.jp)

その他、最新事例は**こちら**



GGPの最新イベントや独自記事に関しては**Webサイト**をご覧ください。

GREEN×GLOBE Partners ■

社会貢献活動

社会貢献方針

SMBCグループは、経営理念「社会課題の解決を通じ、持続可能な社会の実現に貢献する」を実現するため、ここに社会貢献方針を制定致 しました。

- SMBCグループ サステナビリティ宣言に基づき行動し、社会とともに歩む良き企業市民としての役割を果たしてまいります。
- SMBCグループにおける社会貢献は、400年以上に亘る歴史の中で培われた財務基盤、ブランド、国内外のネットワーク、多様で専門性 の高い社員の力などを活用し、自発的に社会課題の解決に貢献することであると考えます。 なお、社会貢献を「自らの経営資源を活用し、対価を求めることなく、自発的に社会課題の解決に貢献すること」と定義します。
- SMBCグループは、勤勉で意欲的な社員の社会貢献への取組がその社員の成長につながるものと考え、支援します。
- SMBCグループの社会貢献への考え方や取組について積極的に情報開示し、ステークホルダーとの対話を通じて、社会課題のいち早い把 握と解決に取り組みます。

社会貢献活動の主要分野

以下、社会貢献活動の取組むべき分野として、「次世代」の領域を中心に、「環境」「コミュニティ」といったSMBCグループが定める重 点課題(マテリアリティ)における課題解決に取り組んでまいります。

- 教育
- 環境
- 社会福祉
- 文化芸術
- スポーツ

社会貢献活動



以下ではそれぞれの重点課題に沿った社会貢献活動の取組を紹介しています。

社会貢献活動 (環境)

社会貢献活動 (コミュニティ)

社会貢献活動 (次世代)

倉本聰 × グループCEO太田純 特別対談



「地球は子孫から借りているもの」、「地球が怒っている?」、「泥のついた1万円札」

これらをキーワードに、脚本家・倉本聰氏と、SMBCグループCEOである太田純が、「サステナビリティ」についてそれぞれの考えを 語り合います。

SMBCグループが支援する富良野自然塾の塾長として、環境教育や、ゴルフ場跡地を自然の森に還す活動をされている倉本聰氏と、 2020年4月に「SMBCグループサステナビリティ宣言」を公表し、持続的社会の実現に向けて行動することを示したSMBCグループの CEO太田純の、全5話にわたる対話をご覧ください。

倉本聰

脚本家

東京大学文学部美学科卒業後、1959年ニッポン放送入社。1963年に退社後、脚本家として独立。1977 年、富良野に移住。1984年から2010年まで、役者やシナリオライターを養成する私塾「富良野塾」を主 宰。2006年に「富良野自然塾」を創設し、塾長を務める。



対談ムービー











富良野自然塾とは



富良野自然塾は、2006年に脚本家・倉本聰氏が北海道富良野市に 創設。ゴルフ場跡地を元の森に還す「自然返還事業」と、そのフ ィールドを使った「環境教育事業」を行っています。SMBCグル ープでは2006年の創設時から『SMBC環境教育プログラム NPO法 人C·C·C富良野自然塾』として、当塾の活動を支援しています。

富良野自然塾 公式ホームページ 🖥

富良野塾とは



1984年に脚本家・倉本聰氏が設立した脚本家と俳優を養成するた めの私塾。毎年約20名の若者がオーディションを経て入塾してい ました。北海道富良野市街で2年間の共同生活を送りながら演劇 を学び、入塾料、受講料は一切無料で塾長である倉本聰氏が講義 を行いました。塾生は夏期に近隣の農家で働き、冬場に制作され る演劇作品を発表する活動を行ってきました。25期26年続けた富 良野塾を2010年4月に閉塾しましたが、現在でも富良野在住の富 良野塾OBを中心に、演劇公演活動やワークショップ、演劇指導な どの活動が続けられています。



SMBCグループ 富良野自然塾特設サイト

社会貢献活動 (環境)

主な取組

- ✔ 富良野自然塾への協賛
- ∨ 三井住友カードの森づくり
- ▼ 東日本大震災被災地における植樹活動
- ▼ 環境情報誌「SAFE」の発行

富良野自然塾への協賛

SMBC

作家、倉本聰氏が主宰する富良野自然塾は、閉鎖されたゴルフ場に2006年春から植樹をして 元の森に還す「自然返還事業」と、そのフィールドを使った「環境教育プログラム」を行っ ています。同行は、倉本聰氏の考えに賛同し、『SMBC 環境教育プログラム NPO法人C・C・C 富良野自然塾』として、当塾の活動を支援しています。



富良野自然塾 🖥

(富良野自然塾のサイトに移動します)

三井住友カードの森づくり

SMCC

三井住友カードでは、ご利用代金明細書のWEB化の推進による収益の一部を森林の育成に充 て、全国に「三井住友カードの森」として間伐や植林を実施しています。お客様のデジタル 化へのご協力と森林育成の共創を実現する本プロジェクトでは、自然に近い多様性のある森 づくりを目指しています。本取り組みにおける ${
m CO_2}$ 吸収量は、森林整備を通じて脱炭素に貢 献する「グリーンパートナー2022」として林野庁ウェブサイトにて公表しております。

森のためにできることサイト(三井住友カードの森)

林野庁ウェブサイト 🗗



東日本大震災被災地における植樹活動

SMBC Group

SMBCグループでは、東日本大震災の被災地支援ボランティア活動の一環として、植樹活動 を継続して行っています。NPO法人わたりグリーンベルトプロジェクトと連携し、津波で甚 大な被害を受けた宮城県亘理郡山元町にて、毎年、役職員ボランティアが防潮林の植樹地の 草抜きや、苗の植樹作業を実施しています。



環境情報誌「SAFE」の発行

SMFG

当社は、環境先進企業へのトップインタビューやビジネストレンド、最新の法規制動向な ど、企業の環境活動に役立つ情報を掲載した情報誌を、1996年から継続的に発行していま

また、地球の未来を担う子どもたちにも、お金と環境のつながりや、環境をよくするための 取組をしている様々な会社の仕事を知ってもらうため、「JUNIOR SAFE」を2015年から発 行しています。2019年12月に発行した「JUNIOR SAFE 第5号」は、「カードでくらべる世界 のエコなくらしかた。」をテーマに、日本と世界のくらし方やその違いが生まれる背景を比 べ、どのようなくらし方がエコなのか、日本でエコなことは海外ではどうなのか等、楽しみ ながら環境問題や世界の多様性について考えるきっかけとなる内容としています。

環境情報誌「SAFE」と「JUNIOR SAFE」については、以下のリンク先をご覧ください。

環境情報誌「SAFE」



社会貢献活動(コミュニティ)

主な取組

- ✔ 社員のボランティア支援
- ∨ 役職員募金へのマッチングギフト制度
- ▼ TABLE FOR TWOやWFPへの参加・支援
- ∨ FITチャリティ・ランへの参加
- ✔ 社内販売会の実施
- ∨ スポーツ振興への支援
- ▼ 笑顔があふれる未来に向けた「約束(プロミス)エッセー大賞」への
 は はまます。
- ∨ 地域社会に対する様々な貢献活動
- ∨ 新興国における社会貢献活動
- ∨ 大規模災害被災地への支援

社員のボランティア支援

SMBCグループではボランティア活動をするために休暇取得できる「ボランティア休暇制度」(年間 $1\sim$ 5日)の提供や、休日・昼休み等に 参加できるプログラム、業務を通じて培ったスキルや経験を活かしたプログラム(プロボノ(※))等を開催することで、社員のボランテ ィア参画に対する支援・体制整備に努めています。

※「プロボノ」とは

ラテン語の「公共善のために(Pro Bono Publico)」に由来し、社会人が、営業・企画・開発・マーケティング・広報など業務を通じて培 ったスキルや経験を活かし、NPOに不足しがちなビジネスの視点を持って支援を行うボランティア活動です。プロボノを行う人はプロボノ ワーカーと呼ばれ、ビジネスパーソンによる、自己啓発を兼ねた新しい社会貢献の形として注目されています。

SMBCグループ プロボノプロジェクト

SMBC Group

SMBCグループ プロボノプロジェクト SMBCグループ プロボノプロジェクトは、社会課題の解決に取り組むNPOを支援する取組です。 2011年度より三井住友銀行にて開始し、2014年度からSMBCグループ各社の役職員に参加対象を広げて実施しています。

2021年度で10周年を迎え、マテリアリティのひとつである「次世代」や「金融スキル」に合致した支援先へ、拠点問わずオンラインで参加 できるプログラムに変更しました。

SMBCグループ プロボノプロジェクト 🍑

(NPO法人サービスグラント ホームページへ移動します)

プロボノワーク

SMBC Nikko

SMBC日興証券は、2020年3月より、社会課題解決への貢献をより一層推進することを目的として、国内金融機関としては珍しい、業務時 間の一部を用いた「プロボノワーク」制度を導入しています。人材が不足しがちなNPOに対し、平日の業務時間中に、証券業務の特色を活 かした多様な支援を行うことにより、社会や経済のさらなる発展への貢献を目指すもので、これまでに延べ124名の役社員が参加しまし た。 (2022年6月時点)

SMBC日興証券:社会貢献活動 ♪

役職員募金へのマッチングギフト制度

SMBCグループライジング基金

SMBC Group

SMBCグループライジング基金は、有志の役職員の給与から毎月天引きする積立募金です。同社からも一部金額を上乗せする、マッチング ギフト制度を導入しており、2022年3月現在、約8,000名超が加入しています。本基金は、2020年度までは銀行のみで運営しておりました が、2021年度より、社会的インパクトの創出により複雑化の一途をたどる社会課題の解決に貢献するため、グループ会社へ拡充しました。 また、寄付先の選定において、一般公募制を導入し、書類審査や団体によるプレゼンテーション発表、役職員による投票等を実施し、2021 年度は約1,500万円寄付することとなりました。

2021年度寄付先についてはこちら 🖥

「SMBCグループライジング基金」の全体図



「約束の杜」

SMBCCF

SMBCコンシューマーファイナンスは、役職員が社会貢献をより身近に考え参加できる仕組みとして、2007年にマッチングギフト制度「約 束の杜」(※)を導入しました。同制度を通じ、未来を担う子どもたちのための児童養護施設助成事業(全国児童養護施設協議会)や児童 自立生活援助事業(全国自立援助ホーム協議会)、聴導犬育成事業(社会福祉法人日本聴導犬協会)を支援しています。

また、売上の一部が日本聴導犬協会の支援になる「寄付型自動販売機」を社内(東京、大阪、福岡)に7台設置し、継続的な支援活動を行 っています。

※「約束の杜」は、同社役職員が寄付先と月々の寄付金額を決定することができるマッチングギフト制度です。役職員の給与から天引きで 集めた募金額に会社からも一定額を加えた総額を寄付先の団体へ寄付しています。

TABLE FOR TWOやWFPへの参加・支援

TABLE FOR TWOへの参加

SMBC SMFL SMBC Nikko SMCC SMBCCF JRI SMBC Finance Service SMBC Trust

「TABLE FOR TWO」(以下、TFT)とは「二人の食卓=1つの食卓を二人で分かち合う」と いうコンセプトで、飢餓や栄養不足に苦しむ途上国の子どもたちと、肥満や生活習慣病に悩 む先進国の私たち双方が同時に健康になることを目指す取組です。役職員食堂でヘルシーメ ニューを購入すると、1食あたり20円が途上国の学校給食1食分として、NPO法人TABLE FOR TWO Internationalを通じて寄付されます。

三井住友銀行は国内の全拠点やニューヨーク支店(※)において、三井住友カードは本社を はじめ5拠点において、SMBCコンシューマーファイナンスや日本総合研究所、SMBCファイ ナンスサービスは本社においてそれぞれ導入しています。

更に、低カロリー飲料やスポーツ飲料などの機能性の高い飲料や、野菜ジュースや果汁 100%のヘルシー飲料などを購入すると寄付ができる「世界をつなぐTABLE FOR TWO」自動 販売機も、三井住友銀行、三井住友ファイナンス&リース、SMBC日興証券、三井住友カー ド、SMBC信託銀行などのSMBCグループ各社で導入しています。

(※) TFTのパートナー企業である弁当販売業者を活用しての参加



WFP「学校給食プログラム」に寄付

SMBC Trust

SMBC信託銀行は、沖縄オフィスに設置している飲料自動販売機の売上の一部(1本につき10円)を、国連World Food Programme (WFP) の「学校給食プログラム(※)」に寄付しています。

(※) 国連WFP「学校給食プログラム」は途上国において、過去40年以上にわたり学校給食を提供しています。30円の寄付が1日分の給食 となり、この給食提供が子どもたちの栄養状態を改善します。また、無料の給食が食べられることで親が子どもたちを学校へ通わせるよう になり、子どもたちの学習機会の拡大にもつながっています。

学校給食支援

FITチャリティ・ランへの参加

SMBC Trust SMBC Nikko

SMBC信託銀行とSMBC日興証券は、金融サービスおよび関連事業を展開する企業で働く有志が設立し運営している、ランニングを通じて 社会貢献活動を行うFITチャリティ・ラン(Financial Industry in Tokyo For Charity Run)に参加しています。FITチャリティ・ランへの協 賛や役職員の参加費により、社会的に意義ある活動をしている団体をサポートしています。

社内販売会の実施

授産品販売会の実施

SMFL

三井住友ファイナンス&リースでは、世田谷区立世田谷福祉作業所、クッキー工房おれんじはうす、社会福祉法人コスモスの授産品(※) の販売会を開催しています。2015年度からこれまでに20回以上開催しており、延べ2,000名以上の役職員が授産品を購入しています。授産 品販売による利益の一部は障がい者の方々の賃金の一部となるため、自立支援につながります。今後も同社では役職員による授産品の購入 を通じて、誰もが安全・安心に生活できる社会づくりの一助となる取組を継続していきます。 ※授産品とは、地域の障がい者施設・地域共同作業所にて作業訓練を行う中で製作した製品です。

スポーツ振興への支援

ゴールボール支援

SMBC Trust

SMBC信託銀行は、2016年8月より一般社団法人日本ゴールボール協会を支援しており、 2022年4月にオフィシャル・トップ・パートナーに就任しました。体験会の開催、役職員ボラ ンティアスタッフの各種大会への派遣などを通じてゴールボール並びに障がい者スポーツの 普及、発展をサポートしています。



日本パラスポーツ協会(JPSA)に寄付金贈呈

SMBC Trust

SMBC信託銀行は、障がい者スポーツの普及、発展に貢献することを目的に、2016年度より「公益財団法人日本パラスポーツ協会」(旧公 益財団法人日本障がい者スポーツ協会)(以下、JPSA)に寄付を行っています。JPSAは、障がい者スポーツの普及・振興を図り、国際舞 台で活躍できる選手の育成・強化などを行う統括団体で、同行がトップパートナーを務める一般社団法人日本ゴールボール協会も加盟して います。寄付金は、同協会を通じて日本パラリンピック委員会加盟競技団体の円滑な運営、競技候補選手の育成強化のサポートなどに役立

ブラインドサッカーへの支援

SMBC Nikko

SMBC日興証券は、パラスポーツへの支援のひとつとして、ブラインドサッカーを支援して います。日本ブラインドサッカー協会は、「ブラインドサッカーを通じて視覚障がい者と健 常者が当たり前に混ざり合う社会」を実現することをビジョンとしており、同社の経営理念 にある「多様性の尊重」および同社のダイバーシティ推進に対する姿勢とも合致していま す。SMBC日興証券と同協会はパートナー契約を締結し、同社役職社員が各大会、 キッズト レーニングなどの運営スタッフとしてボランティアに参加しています。



日本サッカー協会とのコンサルティングパートナー契約

JRI

日本総合研究所は、公益財団法人 日本サッカー協会とサッカー・スポーツ施設の整備推進等に関するコンサルティングパートナー契約、お よび「JFA Youth & Development Programme(以下、JYD)」サポーター契約を締結しました。JYDは、フットボールの普及や次世代選手 の育成を促進することを目的に2016年からスタートしたプログラムです。今後は、サッカーの競技環境の向上を目的とした各種事業をサポ ートします。

笑顔があふれる未来に向けた 「約束(プロミス)エッセー大賞」への協賛

SMBCCF

SMBCコンシューマーファイナンスは、「約束(プロミス)エッセー大賞」(主催:産経新 聞社、以下、エッセー大賞) に1995年度の第1回から協賛しています。

エッセー大賞は、「現代社会における人間関係の大切さや人生を改めて見つめ直し、約束の 大切さを再認識すること」を基本コンセプトにスタートしました。自分への約束、大切な人 との約束、未来に向けた約束など、「約束」に関するエピソードを募集するコンテストで

近年では、学生をはじめ、幅広い年齢層の方々から7,000作品を超える応募があり、2018年 度には、地域や若者の活性化により貢献するために「プロミスお客様サービスプラザ賞」を 新設しました。



「約束(プロミス)エッセー大賞」ホームページ 🗗

地域社会に対する様々な貢献活動

東館ライジング・スクエアや神戸本部ビル公開空地を活用した地域貢献イベント

SMBC

東館のライジング・スクエアや神戸本部ビルの公開空地では、地域貢献の一環として、交響楽団や音楽家によるコンサート、子供向けオペラ、アートや地方創生のイベントを開催しています。

絵画の美術館への貸し出し

SMBC

所有する絵画などの美術品を活用し、地域貢献の一環として、美術館への貸し出しや見学会などを行っています。

工事現場の仮囲いにアート作品を展示

SMBC

所有建物の工事現場の仮囲いに知的障がいのあるアーティストの作品を展示することで、アーティストと地域社会を繋げ、アーティストの活動支援、PR、地域交流に貢献しています。



新興国における社会貢献活動

インドネシア企業とCSR活動で覚書を締結

SMBC

インドネシアでは、経済発展に向けて、国や地方政府レベルでの職業訓練学校のプログラムが推進されています。2015年3月26日、三井住友銀行とインドネシア三井住友銀行(現、BTPN)は、インドネシアの大手企業グループDjarum Group傘下の財団Djarum Foundationと、インドネシアにおけるCSR活動の推進に関する覚書を締結しました。この覚書締結を機に、教育分野での貢献として、これまでに海洋、看護、アニメーションなどの職業訓練学校に対して寄付や役職員からの物品寄贈、同行取引先と連携した教育プログラム改善支援などを行っています。

2017年には、当該訓練学校が国のモデルケースとして認定され、現地でも高く評価されています。

今後も、人材育成や日本語教育の支援など、さまざまな分野でのCSR活動を展開していきます。









フェアトレード製品の購入とお客さまへの配布を通じた開発途上国の支援

SMBC Trust

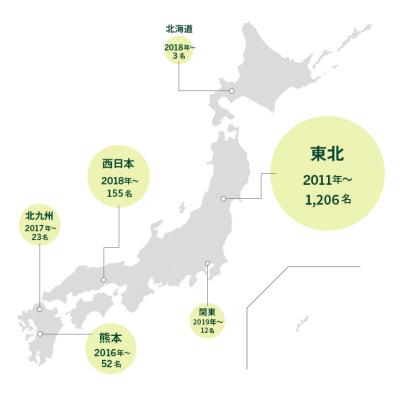
SMBC信託銀行は、国際フェアトレード認証を取得した企業・団体から生活雑貨などを購入し、GLOBAL PASS®(多通貨Visaデビット一体 型キャッシュカード)を毎年一定金額以上ご利用いただいたお客さま(*)へお届けする取組を通じて、開発途上国における持続可能な開 発目標(SDGs)に寄与し、お客さまと共にサステナビリティへの貢献を可能とする施策を推進しております。

(*) プログラム期間中に国内加盟店で、一定額以上をGLOBAL PASSでお支払いされた、日本国内に居住されている個人のお客さま。

大規模災害被災地への支援

SMBC Group

SMBCグループは、大規模災害被災地に対してさまざまな角度から支援を行っています。融資を通じた復興支援や返済支援による生活再建 支援など、本業を通じた被災者支援活動のほか、義援金の寄付や役職員による支援活動も実施しています。2011年以降2019年度末までで、 のべ1,451名のSMBCグループ役職員やその家族が、災害被災地でのボランティア活動に参加しています。



SMBCグループ各社の取組

| SMBCグループ各社の取組 ー | | | | |
|-----------------|--|--|--|--|
| 三井住友銀行 | 2013年11月から、自転車で被災地を巡ることで現状を体感してもらい、復興支援と東 北振興につなげるイベント「ツール・ド・東北」に毎年協賛しています。 | | | |
| 日本総合研究所 | 原発被害者が主催するNPO法人 浮船の里から生まれた絹糸のブランド「minorone」 の支援を通じて、復興支援に取り組んでいます。 | | | |
| ᆸᆇᇞᆸᆒᇌᆌ | mimorone 🖥 | | | |

社会貢献活動 (次世代)

主な取組

✔ 金融リテラシー教育の推進 ▼ ∨ SDGsに関する子ども向け教材の提供 ▼ ∨ 「SMBC presents こどものための音楽会」の開催 ▼ ∨ 三井住友銀行国際協力財団を通じた支援 ▼ ∨ タッチハッピー ~Visaのタッチ決済を通じて次世代を支援~ ▼ ✓ 若手芸術家支援 ✔ 劇団四季「こころの劇場」への協賛 ▼

→ サステナビリティ人材育成プログラム「SAKI」のアカデミア向け無償

金融リテラシー教育の推進

SMBCグループは、誰もがお金に対する正しい知識を身に付け、安心して暮らせる社会を目指し、グループ各社が有する知識やノウハウを活 かした様々な金融経済教育活動を幅広い世代に向けて提供しています。

金融教育は、お金や金融の様々な働きを理解し、それを通じて自分の暮らしや社会について深く考え、自分の生き方や価値観を磨きなが ら、より豊かな生活やよりよい社会づくりに向けて、主体的に行動できる態度を養います。

金融経済教育活動を通して、お金に関する知識だけではなく、自身で生計を立てることや資金計画を考えることで得られる「自立する力」、 また働くことやお金を使うことを通して身に付く「社会とかかわる力」等の向上に貢献しています。実際にセミナーを受講された方からは、 「来年から一人の大人となり責任をもって行動したい」、「ライフプランを実現するために早めに準備する必要があることが分かった」等 のお声をいただいております。

SMBCグループは、「SMBCグループ サステナビリティ宣言」に基づく2030年までの計画である「SMBC Group GREEN×GLOBE 2030」で は、2020年度から2029年度までに金融経済教育を延べ150万人に提供することをKPIと据えています。

また、2020年度は、SMBCグループが提供する「PROMISE 金融経済教育セミナー」を評価の対象事業として、社会的インパクトを可視化す る社会的インパクト評価を実施しました。

金融経済教育の提供実績は以下をご参照下さい。

進捗報告 🖥

金融リテラシー教育の推進 🖥

金融経済教育の提供による社会的インパクト評価は以下をご参照下さい。「4.本社会的インパクト評価の主な分析結果」にて、定量・定性的 な分析結果を公表しています。

2020年度社会的インパクト評価 🗗

SDGsに関する子ども向け教材の提供

SMFG

当社はSDGsに関する子ども向け教材「SDGsスタートブック」に、学習に活用できる事例を 提供しています。本教材では、銀行が気候変動をはじめとする環境問題の解決にどのように 取り組んでいるのかを分かりやすく紹介しています。本教材は小・中学校に無料配布されて おり、内容はSDGsに関する学習用ウェブサイト「EduTown SDGs」でも公開されています。

EduTown SDGs:トップページ **』**

EduTown SDGs:「グリーンなお金の流れ」で持続可能な社会をつくる 🗗





「SMBC presents こどものための音楽会」の開催

三井住友銀行では、公益財団法人新日本フィルハーモニー交響楽団の協力の下、プロの音楽 家を児童館などに派遣する「SMBC presents こどものための音楽会」を開催しています。こ の音楽会は、子どもたちに生のクラシック音楽に触れてもらい、豊かな心を育んでもらう目 的で実施しており、クラシック音楽の演奏のほか、小さいお子さまも楽しめるように皆でボ ディパーカッションに挑戦したり、楽器の仕組みについて紹介しています。



三井住友銀行国際協力財団を通じた支援

SMBC

三井住友銀行国際協力財団は、アジア地域の経済発展に資する人材の育成および国際交流を目的とし、1990年の設立当初より、アジアから 日本の大学院へ進学した留学生、毎年7~8名を対象に奨学金を支給しています。また、開発途上国の経済発展に資する活動を行っている研 究機関・研究者への助成を行っています。

三井住友銀行国際協力財団 🗗

タッチハッピー ~Visaのタッチ決済を通じて次世代を支援~

SMCC

三井住友カードでは、Visaのタッチ決済数とSNSシェア数に応じて、主に次世代への支援を 目的とするNPOなどへの寄付を行っています。

2020年2月から始まった本取り組みでは、フードセーフティや病児保育、学習支援など様々 な活動を支援してきました。

タッチハッピー 🗗



若手芸術家支援

SMBC Trust

SMBC信託銀行は、若手芸術家の活動を支援しています。

その一環として、女子美術大学学生の作品を本店に、大阪芸術大学学生の作品を大阪出張所 やPRESTIAの各支店に展示("PRESTIA Art Branch NEXT")しております。



劇団四季「こころの劇場」への協賛

SMBC SMBC Nikko

「こころの劇場」は、2008年より劇団四季が行っているプロジェクトで、日本全国の子ども たちを無料で劇場に招待し、演劇を通じ子どもたちに生命の大切さ、思いやりの心、信じあ う喜びなど、人が生きていくうえで大切なものを伝える取組です。SMBC日興証券は2015年8 月より特別協賛を実施しており、役職員が運営サポートや会場設営のボランティアを行って



サステナビリティ人材育成プログラム「SAKI」の アカデミア向け無償版の提供

JRI

当社創発戦略センターは、サステナビリティ人材育成プログラム「SAKI」を企業向けに提供しています。これは、事業を通じたSDGsの達成 や、サステナブルな社会・経済の構築への貢献を考えている企業や自治体を対象に、人材育成の取り組み方法について体系的にまとめた研修 プログラムです。 今般、このプログラムの大学等のアカデミア利用向け無償版を開発し、提供を開始しました。

内容は、特に就職活動を控えた学生の関心が高い、産業セクター別の主なリスクと機会の具体例を中心に構成しています。これにより企業の 特徴をサステナビリティの観点から理解できるようになり、産業研究や企業選択を行う際の参考にしていただけるプログラムとなっていま

責任投資への取組

SMBCグループの主要な資産運用会社ある三井住友DSアセットマネジメントは、経営理念に沿った普遍的な企業活動の基本方針である 「FD・サステナビリティ原則」を定め、責任ある機関投資家として最高品質の運用パフォーマンスの提供とサステナブルな社会の実現のた め日々の業務に取り組んでいます。投資哲学には「サステナビリティの考慮」を明記し、運用プロセスへのESG要素の組み込み(ESGイン テグレーション)を含めた運用の高度化を行っています。

ESGを考慮した運用プロダクトのうち、一定の条件を満たす明確なESGインテグレーションを行っているプロダクトを「サステナビリテ ィ・フォーカス」あるいは「社会貢献テーマ型/インパクト投資」として認定しています。2021年3月末時点の運用残高は5兆9,933億円(当 社単体の運用資産残高の約35%)です。

また、サステナブルな社会の実現のため重要な経営課題(マテリアリティ)を特定しました。そのうち気候変動については、世界共通の長 期目標であるパリ協定、さらには、2050年までの温室効果ガス(GHG)排出量実質ゼロの達成に向けた国際社会の取り組みに賛同し、 2022年5月には同目標の実現を目指すグローバルな資産運用会社によるイニシアティブであるNet Zero Asset Managers Initiativeに加盟、 脱炭素社会実現に向けた投資先企業の取り組みを支援しています。

責任投資について 🗗

フィデューシャリー・デューティーおよびサステナビリティに関する取り組み 🧗

サステナビリティレポート 🗗

PRI Public Signatory Reports

マテリアリティに関する取組 🗗

ステークホルダー・エンゲージメント

SMBCグループの基本方針



SMBCグループは、金融事業を営む者として、お客さまをはじめとするステークホルダーと 対話し共に行動することにより、社会をより良いものへ変革することに貢献していきます。

お客さま、株主・市場、社会・環境、従業員一 各ステークホルダーとの関係構築に向けて

- お客さま:お客さまにより高い価値ある商品・サービスを提供し、お客さまとともに発展していきます。
- 株主・市場:適切な情報開示を行うとともに、内部統制の整備を通じて、健全な経営を堅持し、株主価値の増大に努めます。
- 社会・環境:社会貢献活動・環境活動に継続的かつ積極的に取り組み、社会への貢献、地球環境の保全などに努めていきます。
- 従業員:人を尊重し、従業員がその能力を遺憾なく発揮できる企業風土を醸成していきます。

SMBC グループにおけるステークホルダーとのかかわり

| | 盤石力 | な経営体制 | |
|-------------------------------------|--|---|---|
| より良い価値ある 商品・サービス | 健全な経営 | 社会貢献活動 環境活動 | 人を尊重する企業風土 |
| お客さま | 株主・市場 | 社会・環境 | 従業員 |
| ・営業担当者 ・コールセンター ・お客さま満足度調査 ・店頭アンケート | ・株主総会・総合報告書・スモールミーティング・個別面談 | ・NGO、NPO との対話 ・国内外のイニシアチブへの賛同 ・ボランティア活動 | 経営層との意見交換会・タウンホールミーティング・従業員意識調査 |

サステナビリティの実現

お客さまとのかかわり

三井住友銀行:お客さま満足(CS)向上にむけた取組 🗗

株主・市場とのかかわり

IRカレンダー IRイベント・プレゼンテーション

社会・環境とのかかわり

ステークホルダー・ダイアログ

従業員とのかかわり

ダイバーシティ&インクルージョンへの取組 全従業員が働きやすい職場づくり(ワークライフバランス)

サプライチェーンにおけるサステナビリティ

SMBCグループは、サプライチェーン全体で、環境・社会に配慮した責任ある調達活動を推進するため、「持続可能な調達方針」を策定し ています。この方針は、「国連グローバルコンパクト」における10原則、「OECD多国籍企業行動指針」「ビジネスと人権に関する指導原 則」などの国際原則を踏まえたものです。

この方針に基づき、SMBCグループの調達活動は、関係法令を遵守し、自由な競争に基づく公正・公平かつ透明な手続きによって行われま

持続可能な調達方針 PDF

この「持続可能な調達方針」に関連し、SMBCグループは、サプライチェーン全体での付加価値向上と、取引先との共存共栄の構築を目指 し、「パートナーシップ構築宣言」を定めています。

内閣府・中小企業庁「パートナーシップ構築宣言」ポータルサイト ▶

ステークホルダー・ダイアログ

SMBCグループは、ステークホルダーの皆さまとの対話を通じて、我々金融グループとして取り組むべき社会的責任を検証する場として、 「ステークホルダー・ダイアログ」を開催しています。

ステークホルダー・ダイアログ2019

「SMBCグループ サステナビリティ宣言」の内容および社内への浸透について (2019年9月5日)

社会課題解決のために、メガバンクグループが求められる社会的インパクトとは(2019年11月27日)

ステークホルダー・ダイアログ2017

持続可能な社会の発展に向けて

-金融機関に期待されるSDGsおよびESGへの取組- (2018年1月18日)

ステークホルダー・ダイアログ2016

重点課題(マテリアリティ)における「取り組むべき項目」の検証(2016年10月19日)

ステークホルダー・ダイアログ2015

「10年後のありたい姿」を実現するために(2015年5月12日)

ステークホルダー・ダイアログ2013

金融機関の本業を通じたお客さまへのソリューション開発を目指して 「SMBC環境配慮評価融資/私募債」外部評価委員会④(2013年7月26日)

ステークホルダー・ダイアログ2012

少子化問題に関する企業への期待と役割 (2013年1月24日)

被災地支援ボランティアの振り返りと今後の活動に向けて(2012年7月12日)

ステークホルダー・ダイアログ2011

持続可能な企業経営の更なる支援を目指して 「SMBC環境配慮評価融資/私募債」外部評価委員会③(2012年3月12日)

日本の食と農を考える(2011年8月8日)

環境配慮評価融資 外部評価委員会一覧

環境配慮評価融資/私募債の外部評価委員会についてはこちらからご覧ください。

環境配慮評価融資/私募債 外部評価委員会

イニシアチブ参画・参考ガイドライン

国内外のイニシアチブに参画・賛同する意義

イニシアチブとは「initiative(主導権)」から来る言葉で、企業の行動指針や原則を意味しています。SMBCグループは、「国連グローバ ル・コンパクト」をはじめとした国内外のイニシアチブに賛同しています。

グローバル規模の課題を解決し、持続的な社会を実現するためには、さまざまな組織が垣根なく連携して取り組むことが不可欠です。SMBC グループは、金融機関の持つ社会的影響力を踏まえ、こうしたイニシアチブへの参画を通して社会に向けて宣言し、グローバル社会の一員 として積極的に役割を果たしていきます。

とりわけ気候変動に関して、SMBCグループは、2030年までにSMBCグループ自身が排出するGHGをネットゼロとすることに加え、2050年 までに投融資ポートフォリオ全体でのGHG排出量をネットゼロとすることへコミットしています。このコミットメントを踏まえ、国際的な イニシアチブである「Glasgow Financial Alliance for Net-Zero」(GFANZ)の作業部会に参画し意見発信を実施すると共に、「Net-Zero Banking Alliance」(NZBA)に加盟しています。また、ネットゼロ目標の達成に向けた取組を深化させるため「Taskforce on Scaling Voluntary Carbon Markets」(TSVCM)、および「Partnership for Carbon Accounting Financials」(PCAF)等に参画しています。GFANZ やNZBAでは、Sectoral Pathway 作業部会、Financing and Engagement作業部会等に参加し、ネットゼロに向けた金融業界から産業界への 提言やトランジションファイナンスのガイダンス作成に関与しています。PCAFでは金融業界のFinance emission計測手法の策定に向け意見 発信等に貢献しています。このようなグローバルなイニシアチブに積極的に関与しながら、脱炭素社会の実現に向けた取組を進めています。

また、SMBCグループの中核子会社である三井住友銀行が所属する全国銀行協会は2021年12月、「カーボンニュートラルの実現に向けた全 銀協イニシアティブ」を策定し、銀行界としての取組みを強化しています。「カーボンニュートラルの実現に向けた全銀協イニシアティブ」 の策定において、三井住友銀行は策定時の会長行として、主導的な役割を果たしました。

SMBC グループは、自身のネットゼロ目標の達成に向けた取組を加速させるとともに、気候変動問題に関する国内外の議論に積極的に貢献 し、脱炭素社会の実現をリードしてまいります。

- 「Net-Zero Banking Alliance」等への参加について 🖥
- 「PCAF Japan coalition」の発足と参画について ■
- 「カーボンニュートラルの実現に向けた全銀協イニシアティブ」の策定について ┛
- 気候変動対策ロードマップ・アクションプラン ■

SMBCグループが賛同するイニシアチブ

WE SUPPORT



国連グローバル・コンパクト

国連が提唱する、人権・労働・環境・腐敗防止に係る10原則

■人権

1.企業は、国際的に宣言されている人権の擁護を支持、尊重し、 2.自らが人権侵害に加担しないよう確保すべきである。

■ 労働

3.企業は、結社の自由と団体交渉の実効的な承認を支持し、

4.あらゆる形態の強制労働の撤廃を支持し、

5.児童労働の実効的な廃止を支持し、

6.雇用と職業における差別の撤廃を支持すべきである。

■環境

7.企業は、環境上の課題に対する予防原則的アプローチを支持し、

8.環境に関するより大きな責任を率先して引き受け、

9.環境に優しい技術の開発と普及を奨励すべきである。

■ 腐敗防止

10.企業は、強要と贈収賄を含むあらゆる形態の腐敗の防止に取り組むべきである。

関連サイト 🖥





持続可能な開発目標 (SDGs)

国連が提唱する、人権・労働・環境・腐敗防止に係る10原則

「国連持続可能な開発サミット」において、人間、地球および繁栄のための行動計画として 採択されたSDGsは、17の目標と169のターゲットを掲げています。SMBCグループは、グロ ーバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパンの会員企業として、この目標の実現のために 貢献していきます。

SMBCグループのSDGsへの取組については、以下をご参照ください。

SMBC グループの事業と SDGs

関連サイト 🖥



国連環境計画・金融イニシアチブ (UNEP FI)

金融機関が環境および持続可能性に配慮した最も望ましい事業のあり方を追求し、これを 普及、促進するための組織。

関連サイト 🖥

Signatory of:



責任投資原則 (PRI)

機関投資家がESG課題を把握した上で投資プロセス等に組み込み、お客さま・最終受益者の ために長期的な投資成果を向上させることを目的とした原則。 2006年4月にアナン国連事務総長(当時)によって公表。

関連サイト

Founding Signatory of:



PRINCIPLES FOR RESPONSIBLE BANKING

責任銀行原則 (PRB)

社会の持続的な発展を目指し、SDGsやパリ協定等で示されている社会の目標に沿った戦略 や目標を設定・実行し、透明性のある開示を行うことを目的とした原則。

関連サイト 🖥

初回レポート 🍱

第2回レポート 🚥



気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)

2015年4月の金融安定理事会 (FSB) によって設立されたタスクフォース。気候変動の影響 を個々の企業が財務報告において公表することを求めるもの。

SMBCグループは、2017年12月にパリで開催されたOne Planet Summitにて賛同を表明。

関連サイト 🖥



Net-Zero Banking Alliance

Net-Zero Banking Alliance (NZBA)

国連環境計画金融イニシアチブ (UNEP FI) の主導のもと 2021 年 4 月に発足した、科学的 根拠に基づく中長期温室効果ガス排出量削減目標の設定やその進捗報告を通じて、2050年 までに投融資ポートフォリオから排出される温室効果ガスをネットゼロとすることを目指 す国際的なイニシアチブ。



Partnership for Carbon Accounting Financials (PCAF)

投融資ポートフォリオにおける 温室効果ガス排出量の測定・開示の標準化を目指す、2015 年 12 月に発足した金融機関の共同イニシアチブ。

SMBCグループは、PCAFグローバル事務局からのサポートを受けつつ、本邦金融機関に投 融資を通じた温室効果ガス計測・開示が広く普及・浸透するよう取り組む「PCAF Japan coalition」にも参画しています。



CDP

気候変動に関する機関投資家と企業経営者との継続的な対話を促すことで気候変動の影響 を測定、管理、削減する取組。

関連サイト 🖥



ポセイドン原則

海運業界における気候変動リスクへの取組に対し、金融面から貢献することを目的に、民 間金融機関主導で設立された原則。

SMBCグループでは、三井住友銀行と三井住友ファイナンス&リースが加盟。

関連サイト 🖥



エクエーター原則

国際金融公社(IFC)のガイドラインに基づいた、大規模なプロジェクト向け融資における 環境・社会への配慮基準。

関連サイト 🖥



21世紀金融行動原則

日本における環境金融の裾野の拡大と質の向上を目的として、2011年10月に採択された国 内金融機関を対象とする行動原則。

※2020年7月時点で28機関が署名しており、SMBCグループからは三井住友銀行、三井住友 ファイナンス&リース、SMBC日興証券、三井住友DSアセットマネジメントが署名していま す。また三井住友銀行は、2012年度以降、運営委員として、この行動原則の運営委員会に 参画し、2018年度は共同委員長を務めました。

関連サイト 🖥

参考にしているガイドライン

SMBC Group

SMBCグループは、サステナビリティの実現に向けた取組の情報発信において、下記ガイドラインを参考にしています。

| ∨ GRIスタンダード |
|----------------------------------|
| |
| ∨ SASBスタンダード |
| |
| ∨ Stakeholder Capitalism Metrics |

GRIスタンダード

Global Reporting Initiative(GRI)が提供する、組織の経済・環境・社会へのインパクトと、持続可能な発展への貢献を説明するためのグ ローバルな情報開示基準である「GRIスタンダード」を参考にしています。以下の対照表では、本スタンダードの各評価指標に対応する掲 載ページを示しています。

| GRIスタンダード | 開示事項 | | 掲載箇所 |
|------------------|------|--------------------------------|--------------------------------|
| GRI 2: 一般開示 2021 | 2-1 | 組織概要 | ● 企業情報 ■ |
| | 2-2 | 報告対象組織 | ● 企業情報 ■ |
| | 2-3 | 報告期間と頻度 | ● IRカレンダー 』 |
| | 2-4 | 情報の再記述 | |
| | 2-5 | 外部保証 | ● 環境負荷軽減への取組 ▮ |
| | 2-6 | 活動、バリューチェーン及びその他ビジ ネス関係 | ● 企業情報 ■ |
| | 2-7 | 従業員 | ● ESGデータブックP11 🖥 |
| | 2-8 | 非正規雇用者 | |
| | 2-9 | ガバナンス構造 | ● コーポレート・ガバナンス 🖥 |
| | 2-10 | 最高ガバナンス機関の指名と選出 | ● コーポレート・ガバナンス 🖥 |
| | 2-11 | 最高ガバナンス機関の議長 | ● コーポレート・ガバナンス 🖥 |
| | 2-12 | 最高ガバナンス機関の役割 | ● コーポレート・ガバナンス 🖥 |
| | 2-13 | 権限移譲 | ● サステナビリティ経営体制 🖥 |
| | 2-14 | サステナビリティ報告における最高ガバナ ンス機関の役割 | ● サステナビリティ経営体制 ₽ |
| | 2-15 | 利益相反 | ● 利益相反管理方針の概要 ₽ |
| | 2-16 | 重大な懸念事項の伝達 | ■ コンプライアンス体制 |
| | | | ● リスク管理への取組 ┛ |
| | 2-17 | 最高ガバナンス機関の集合的知見 | ● ステークホルダー・エンゲージメント 🗗 |
| | 2-18 | 最高ガバナンス機関のパフォーマンスの 評価 | ● コーポレート・ガバナンス 🖥 |
| | 2-19 | 報酬方針 | ● コーポレート・ガバナンス 🖥 |
| | 2-20 | 報酬の決定プロセス | ● コーポレート・ガバナンス 🗗 |
| | 2-21 | 年間報酬総額の比率 | ● コーポレート・ガバナンス 🖥 |
| | 2-22 | サステナビリティ戦略に係る声明 | ● SMBCグループ サステナビリティ宣言 』 |

| GRIスタンダード | 開示事項 | | 掲載箇所 |
|----------------------|------|-----------------------------|--|
| GRI 2: 一般開示 2021 | 2-23 | 方針 | お客さま本位 お客さま本位 |
| | | | ● コンプライアンス体制 ┛ |
| | | | ● 人権の尊重 ┛ |
| | 2-24 | 方針の実行 | ● サステナビリティ経営体制 ▮ |
| | | | ● お客さま本位 🖥 |
| | | | ● コンプライアンス体制 ┛ |
| | | | ● 人権の尊重 ┛ |
| | 2-25 | 救済プロセス | ● 人権尊重に係る声明 ■ |
| | 2-26 | 通報制度 | ■ コンプライアンス体制 ₽ |
| | 2-27 | コンプライアンス | ● コンプライアンス体制 ₽ |
| | 2-28 | 参画組織 | ● イニシアチブ参画・参考ガイドライン ┛ |
| | 2-29 | ステークホルダー・エンゲージメントの アプローチ | ステークホルダー・エンゲージメント |
| | 2-30 | 労使協定 | ● ESGデータブック P10 ₽ |
| GRI 3: マテリアルな項目 2021 | 3-1 | マテリアリティの決定プロセス | ● 重点課題(マテリアリティ) ┛ |
| | 3-2 | マテリアルな項目のリスト | ● 重点課題(マテリアリティ) ┛ |
| | 3-3 | マテリアルな項目の管理 | ● サステナビリティ経営体制 ₽ |
| | | | ● リスク管理への取組 ₽ |
| | | | ● 環境リスクへの対応 ₽ |

| 経済 | | | | | | |
|--------------------------|-------|---------------------------------------|----------------------------|--|--|--|
| GRIスタンダード | 開示事項 | | 掲載箇所 | | | |
| GRI201:経済パフォーマンス 2016 | 201-1 | 創出、分配した直接的経済価値 | ● 決算関連資料 | | | |
| | 201-2 | 気候変動による財務上の影響、その他の リスクと機会 | ● 気候変動への対応(TCFD提言への取組) 『 | | | |
| | 201-3 | 確定給付型年金制度の負担、その他の退 職金制度 | ● 有価証券報告書2021 連結財務諸表 🗗 | | | |
| | 201-4 | 政府から受けた資金援助 | | | | |
| GRI202:地域経済での存在感 2016 | 202-1 | 地域最低賃金に対する標準新人給与の比率 (男女別) | | | | |
| | 202-2 | 地域コミュニティから採用した上級管理 職の割合 | ● グローバル人材の活躍 🗗 | | | |
| GRI203:間接的な経済的インパクト 2016 | 203-1 | インフラ投資および支援サービス | ● 社会貢献活動(コミュニティ) 🗗 | | | |
| | 203-2 | 著しい間接的な経済的インパクト | | | | |
| GRI204:調達慣行 2016 | 204-1 | 地元サプライヤーへの支出の割合 | | | | |
| GRI205:腐敗防止 2016 | 205-1 | 腐敗に関するリスク評価を行っている事 業所 | ● コンプライアンス体制 ₽ | | | |
| | 205-2 | 腐敗防止の方針や手順に関するコミュニ ケーションと研修 | ● コンプライアンス体制 ₽ | | | |
| | 205-3 | 確定した腐敗事例と実施した措置 | | | | |
| GRI206:反競争的行為 2016 | 206-1 | 反競争的行為、反トラスト、独占的慣行 により受けた法的措置 | | | | |
| GRI207: 税務2019 | 207-1 | 税務へのアプローチ | ● グループタックスポリシー ₽ | | | |
| | 207-2 | ガバナンス、管理、およびリスクマネジ メント | ● グループタックスポリシー 🚰 | | | |
| | | | ● リスク管理への取組 ▮ | | | |
| | 207-3 | 税務に関連するステークホルダー・エン ゲージメントおよび懸念への対処 | | | | |
| | 207-4 | 国別の報告 | | | | |

| 環境 | | | | | |
|-------------------|-------|---------------------------|----------------|--|--|
| GRIスタンダード | 開示事項 | | 掲載箇所 | | |
| GRI301:原材料 2016 | 301-1 | 使用原材料の重量または体積 | | | |
| | 301-2 | 使用したリサイクル材料 | ● 環境負荷軽減への取組 ■ | | |
| | 301-3 | 再生利用された製品と梱包材 | ● 環境負荷軽減への取組 ■ | | |
| GRI302:エネルギー 2016 | 302-1 | 組織内のエネルギー消費量 | ● 環境負荷軽減への取組 ■ | | |
| | 302-2 | 組織外のエネルギー消費量 | ● 環境負荷軽減への取組 ■ | | |
| | 302-3 | エネルギー原単位 | | | |
| | 302-4 | エネルギー消費量の削減 | ● 環境負荷軽減への取組 | | |
| | 302-5 | 製品およびサービスのエネルギー必要量 の削減 | | | |

| 環境 | | | | | |
|--------------------|-------|---|----------------|--|--|
| GRIスタンダード | 開示事項 | | 掲載箇所 | | |
| GRI303:水と廃水 2018 | 303-1 | 共有資源としての水との相互作用 | | | |
| | 303-2 | 排水に関連するインパクトのマネジメン ト | | | |
| | 303-3 | 取水 | | | |
| | 303-4 | 排水 | | | |
| | 303-5 | 水消費 | ● 環境負荷軽減への取組 ■ | | |
| GRI304:生物多様性 2016 | 304-1 | 保護地域および保護地域ではないが生物 多様性価値の高い地域、もしくはそれら の隣接地域に所有、貸借、管理している 事業サイト | | | |
| | 304-2 | 活動、製品、サービスが生物多様性に与 える著しいインパクト | | | |
| | 304-3 | 生息地の保護・復元 | | | |
| | 304-4 | 事業の影響を受ける地域に生息するIUCN レッドリストならびに国内保全種リスト 対象の生物種 | | | |
| GRI305:大気への排出 2016 | 305-1 | 直接的な温室効果ガス(GHG)排出量 (スコープ1) | ● 環境負荷軽減への取組 ■ | | |
| | 305-2 | 間接的な温室効果ガス(GHG)排出量 (スコープ2) | ● 環境負荷軽減への取組 ₽ | | |
| | 305-3 | その他の間接的な温室効果ガス(GHG) 排出量(スコープ3) | ● 環境負荷軽減への取組 ■ | | |
| | 305-4 | 温室効果ガス(GHG)排出原単位 | ● 環境負荷軽減への取組 ■ | | |
| | 305-5 | 温室効果ガス(GHG)排出量の削減 | ● 環境負荷軽減への取組 ₽ | | |
| | 305-6 | オゾン層破壊物質(ODS)の排出量 | | | |
| | 305-7 | 窒素酸化物(NOx)、硫黄酸化物 (SOx)、およびその他の重大な大気排出 物 | | | |
| GRI306:廃棄物 2020 | 306-1 | 廃棄物の発生と廃棄物関連の著しいイン パクト | | | |
| | 306-2 | 廃棄物関連の著しいインパクトの管理 | | | |
| | 306-3 | 発生した廃棄物 | | | |
| | 306-4 | 処分されなかった廃棄物 | | | |
| | 306-5 | 処分された廃棄物 | | | |
| GRI308: 2016 | 308-1 | 環境基準により選定した新規サプライヤ ー | | | |
| | 308-2 | サプライチェーンにおけるマイナスの環境 インパクトと実施した措置 | | | |

| 社会 | | | | | | |
|------------------------------|--------|---|------------------------------------|--|--|--|
| GRIスタンダード | 開示事項 | | 掲載箇所 | | | |
| GRI401:雇用 2016 | 401-1 | 従業員の新規雇用と離職 | ● ESGデータブック P9 🗗 | | | |
| | 401-2 | 正社員には支給され、非正規社員には支 給されない手当 | | | | |
| | 401-3 | 育児休暇 | ESGデータブック P12 ₽ | | | |
| GRI402:労使関係 2016 | 402-1 | 事業上の変更に関する最低通知期間 | | | | |
| GRI403:労働安全衛生 2016 | 403-1 | 労働安全衛生マネジメントシステム | ● 健康経営 | | | |
| | 403-2 | 危険性(ハザード)の特定、リスク評 価、事故調査 | | | | |
| | 403-3 | 労働衛生サービス | | | | |
| | 403-4 | 労働安全衛生における労働者の参加、協 議、コミュニケーション | ● 健康経営 ■ | | | |
| | 403-5 | 労働安全衛生に関する労働者研修 | ● 健康経営 ■ | | | |
| | 403-6 | 労働者の健康増進 | ● 健康経営 | | | |
| | 403-7 | ビジネス上の関係で直接結びついた労働 安全衛生の影響の防止と緩和 | | | | |
| | 403-8 | 労働安全衛生マネジメントシステムの対 象となる労働者 | ● 健康経営 | | | |
| | 403-9 | 労働関連の傷害 | | | | |
| | 403-10 | 労働関連の疾病・体調不良 | | | | |
| GRI404:研修と教育 2016 | 404-1 | 従業員一人あたりの年間平均研修時間 | ■ ESGデータブック P10 | | | |
| | 404-2 | 従業員スキル向上プログラムおよび移行 支援プログラム | ● 人材戦略 ■ | | | |
| | 404-3 | 業績とキャリア開発に関して定期的なレ ビューを受けている従業員の割合 | ● 人材戦略 ₽ | | | |
| GRI405:ダイバーシティと機会均 等 2016 | 405-1 | ガバナンス機関および従業員のダイバー シティ | ● ESGデータブック P11,13,17 🗗 | | | |
| | 405-2 | 基本給と報酬総額の男女比 | | | | |
| GRI406:非差別 2016 | 406-1 | 差別事例と実施した救済措置 | | | | |
| GRI407:結社の自由と団体交 渉 2016 | 407-1 | 結社の自由や団体交渉の権利がリスクに さらされる可能性のある事業所およびサ プライヤー | ● 人権尊重に係る声明 ■ | | | |
| GRI408:児童労働 2016 | 408-1 | 児童労働事例に関して著しいリスクがあ る事業所およびサプライヤー | ● 人権尊重に係る声明 🖥 | | | |
| GRI409:強制労働 2016 | 409-1 | 強制労働事例に関して著しいリスクがあ る事業所およびサプライヤー | ● 人権尊重に係る声明 🖥 | | | |
| GRI410:保安慣行 2016 | 410-1 | 人権方針や手順について研修を受けた保 安要員 | | | | |

| 社会 | | | | | |
|-----------------------------------|-------|--|------------|--|--|
| GRIスタンダード | 開示事項 | | 掲載箇所 | | |
| GRI411:先住民族の権利 2016 | 411-1 | 先住民族の権利を侵害した事例 | | | |
| GRI413:地域コミュニティ 2016 | 413-1 | 地域コミュニティとのエンゲージメント、 インパクト評価、開発プログラムを実施 した事業所 | | | |
| | 413-2 | 地域コミュニティに著しいマイナスのイン パクト (顕在的、潜在的) を及ぼす事業 所 | | | |
| GRI414:サプライヤーの社会面のア セスメント 2016 | 414-1 | 社会的基準により選定した新規サプライ ヤー | | | |
| | 414-2 | サプライチェーンにおけるマイナスの社会 的インパクトと実施した措置 | | | |
| GRI415:公共政策 2016 | 415-1 | 政治献金 | | | |
| GRI416:顧客の安全衛生 2016 | 416-1 | 製品およびサービスのカテゴリーに対す る安全衛生インパクトの評価 | ● お客さま本位 🗗 | | |
| | 416-2 | 製品およびサービスの安全衛生インパク トに関する違反事例 | | | |
| GRI417:マーケティングとラベリン グ 2016 | 417-1 | 製品およびサービスの情報とラベリング に関する要求事項 | | | |
| | 417-2 | 製品およびサービスの情報とラベリング に関する違反事例 | | | |
| | 417-3 | マーケティング・コミュニケーションに関 する違反事例 | | | |
| GRI418:顧客プライバシー 2016 | 418-1 | 顧客プライバシーの侵害および顧客データの紛失に関して具体化した不服申立 | | | |

SASBスタンダード

米国サステナビリティ会計基準審議会(SASB)が 2018年10月に発行した、グローバルな情報開示基準である「SASBスタンダード」を参 考にしています。以下の対照表では、「商業銀行(FN-CB)」「投資銀行および証券会社(FN-IB)」の2つの産業のスタンダードに対応す る掲載ページを示しています。

| 産業別 | トピック | コード | 開示項目 | 開示箇所 |
|-----|--------|---|--|------------------|
| СВ | FN-CB- | | (1) データ漏洩の件数、 (2) 個人を特定できる情報が含まれる割合、 (3) 影響を受けたアカウントホルダーの数 | |
| СВ | | | データセキュリティリスクを特定し、対 処するための方法に関する説明 | ● サイバーセキュリティ経営宣言 |
| | | 72 7 3 12 13 13 13 14 14 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 | ● プライバシー・ポリシー | |

| 産業別 | トピック | コード | 開示項目 | 開示箇所 |
|-------|---------------------------|------------------|---|-------------------------------|
| СВ | 金融包摂と能力開発 | FN-CB- 240a.1 | 中小企業の振興、地域コミュニティの発 展を目的としたプログラムの対象となる 融資の件数および残高 | ● 2020年度決算説明資料 P12 |
| СВ | | FN-CB- 240a.2 | 中小企業やコミュニティ開発を促進する ためのプログラムに適合した延滞債権お よび非延滞債権の(1)件数、(2)金額 | |
| СВ | | FN-CB- 240a.3 | これまで銀行口座を持たなかった、ある いは銀行口座を持たない顧客に提供され た無料のリテール・チェックアカウント の数 | |
| СВ | | FN-CB- 240a.4 | 銀行口座を全く持たない層、銀行口座は あるがノンバンクを利用している層、十 分な金融サービスを受けられない層を対 | ● 金融リテラシー教育の推進 |
| | | | 象とした金融リテラシー向上の取り組み への参加者の数 | ● 統合報告書2021:P07 |
| СВ | 与信分析へのESG要素の組 み込み | FN-CB- 410a.1 | 産業別の与信エクスポージャー | ● ディスクロージャー誌資料編 2021:P 120 |
| IB | | FN-IB- 410a.1 | ESG 要素が組み込まれた(1)引受業務、(2) アドバイザリー、(3)証券化取引 からの総 収入 | ● SMBCグループ グリーンボンド |
| IB | | FN-IB- 410a.2 | ESG 要素が組み込まれた投融資の (1)件 数、(2)総額 | ● SMBCグループ グリーンボンド |
| CB/IB | | FN-CB 410a.2 | 与信分析におけるESG要素の組み込みに関 する説明 | ● 環境リスクへの対応 |
| CB/IB | 企業倫理 | FN-CB- 510a.1 | 詐欺、インサイダー取引、反トラスト、 反競争的行為、市場操作、不正行為、ま たは他の関連する金融業界の法規制に伴 う法的手続きの結果としての金銭的損失 の総額 | ● コンプライアンス体制 |
| CB/IB | | FN-CB- 510a.2 | 内部告発に係る方針、手順に関する説明 | ● コンプライアンス体制 |
| CB/IB | システミックリスクの管理 | FN-CB- 550a.1 | カテゴリー別のグローバルなシステム上 重要な銀行(G-SIB)スコア | ● レバレッジ比率 データブック P13 |
| CB/IB | | FN-CB- 550a.2 | 義務・任意のストレステストの結果を自己資本計画、長期的な企業戦略、その他の事業活動へ反映させるための方法に関する説明 | ● リスク管理への取組 |
| IB | 従業員のダイバーシティ & インクルージョン | FN-IB- 330a.1 | (1)経営幹部、(2)経営幹部以外の管理職、 (3)専門職、(4)その他のすべての従業員 の性別・人種・民族別構成比 | ● ESGデータブックP11 |

| 産業別 | トピック | コード | 開示項目 | 開示箇所 |
|-----|------------------------|------------------|---|-------------------------|
| IB | 職業上の誠実性 | FN-IB- 510b.1 | 投資関連の捜査、消費者からの苦情、民 事訴訟、その他訴訟手続の記録を持つ従 業員の (1)数および (2)割合 | |
| IB | | FN-IB- 510b.2 | 注意義務を含む職務上の誠実性に関連す る調停・仲裁案件の当事者別件数 | |
| IB | | FN-IB- 510b.3 | 注意義務を含む職業上の誠実性に関連す る法的手続きの結果としての金銭的損失 の総額 | ■ コンプライアンス体制 |
| IB | | FN-IB- 510b.4 | 注意義務を含む職業上の誠実性を確保す る方法の説明 | ● お客さま本位 |
| | | | | ● コンプライアンス体制 |
| IB | 従業員のインセンティブと リスクテイク | FN-IB- 550b.1 | 総報酬に占める重要なリスクテイカー (MRT)の変動報酬 | |
| IB | | FN-IB- 550b.2 | 重要なリスクテイカー(MRT)の変動報 酬のうち、マルス条項またはクローバッ ク条項が適用された割合 | |
| IB | | FN-IB- 550b.3 | レベル3の資産・負債のトレーダーによる 価格設定の監督、管理、検証に関する方 針についての議論 | |
| СВ | アクティビティ・メトリク ス | FN- CB-000.A | セグメント別:(a)個人、(b)中小企業の当 座預金・普通預金の(1)口座数、(2)金額 | ● ディスクロージャー誌2021 P117 |
| СВ | | FN- CB-000.B | セグメント別:(a)個人、(b)中小企業、(c) 法人の(1)融資件数、(2)融資金額 | ● ディスクロージャー誌2021 P117 |
| IB | | FN-IB-000.A | (a)引受業務、(b)アドバイザリー、(c)証券 化取引の(1)件数、(2)金額 | ● 2020年度決算 投資家説明会資料 P73 |
| IB | | FN-IB- 000.B | 産業別:自己勘定取引の(1)件数および(2) 金額 | |
| IB | | FN-IB-000.C | (a)債券、(b)株式、(c)為替、(d)デリバティブ、 (e)コモディティの(1)件数、(2)市場取引金額 | ● 2020年度決算説明資料 |

国連グローバル・コンパクト COP(コミュニケーション・オン・プログレス)Advanced Level基準

SMBCグループは、「国連グローバル・コンパクト」の人権・労働・環境・腐敗防止に係る10原則に賛同を表明しています。また、同原則 の実行状況を報告する「コミュニケーション・オン・プログレス」の作成にあたっては、「Advanced Level」を達成するために提示されて いる24の評価基準を参考にしています。

Stakeholder Capitalism Metrics

2020年9月、世界経済フォーラム(World Economic Forum、WEF)は、その下部評議会である国際ビジネス評議会(International Business Council、IBC)を通じ「ステークホルダー資本主義の測定ー持続可能な価値創造の共通指標と一貫した報告に向けてー」 ("Measuring Stakeholder Capitalism: Towards Common Metrics and Consistent Reporting of Sustainable Value Creation") と題する 報告書を公表しました。その中で、IBCとしての非財務情報開示・報告の枠組み(以下、「IBC非財務情報開示」)を公表しております。 IBC非財務情報開示では、SDGsや主要なESG分野に沿った非財務情報を「ガバナンス(Principles of Governance)」、「プラネット (Planet)」、「人々(People)」、「繁栄(Prosperity)」の4つの項目に整理の上、それぞれの評価指標を列挙しています。

SMBCグループは、IBCによる国際的な開示基準の策定に向けた議論に加わってきました。以下の対照表では、本報告書の各評価指標に対応 する掲載ページを示しています。

| Principles of Governance | | |
|--------------------------------|---|---|
| Theme | Core metrics | 掲載箇所 |
| Governing purpose | Setting purpose | コーポレート・ガバナンス 内部監査 コンプライアンス体制 SMBCグループの理念体系 |
| Quality of governing body | Governance body composition | コーポレート・ガバナンス 三井住友フィナンシャルグループ:役員の状況(アニュアルレポート) 三井住友フィナンシャルグループの取締役(アニュアルレポート) ESGデータブック |
| Stakeholder engagement | Material issues impacting stakeholders | コーポレート・ガバナンス ステークホルダー・エンゲージメント サステナビリティ経営体制 SMBCグループとして取り組むべき重点課題(マテリアリティ) |
| Ethical behaviour | Anti-corruption Protected ethics advice and reporting mechanisms | コンプライアンス体制 コンプライアンス体制 |
| Risk and opportunity oversight | Integrating risk and opportunity into business process | 重点課題(マテリアリティ)SMBCグループの価値創造プロセスリスク管理への取組 |

| Planet | | | |
|-------------------------|--|--|--|
| Theme Core metrics | | 掲載箇所 | |
| Climate change | Greenhouse gas (GHG) emissions | 環境負荷軽減への取組 ■ SMBCグループ各社の環境負荷データ ■ ESGデータブック | |
| | TCFD implementation | ● 気候変動への対応(TCFD提言への取組) ■ | |
| Nature loss | Land use and ecological sensitivity | ● エクエーター原則 🗗 | |
| Freshwater availability | Water consumption and withdrawal in water-stressed areas | - | |

| People | | |
|-----------------------|--|--|
| Theme | Core metrics | 掲載箇所 |
| Dignity and equality | Diversity and inclusion | 三井住友フィナンシャルグループ:役員の状況(アニュアルレポート) 三井住友銀行:役員の状況(アニュアルレポート) 三井住友フィナンシャルグループの取締役(アニュアルレポート) ESGデータブック |
| | Pay equality | ● Gender pay gap report 2019(英語のみ) 🗗 |
| | Wage level | - |
| | Risk for incidents of child, forced or compulsory labour | ● イニシアチブ参画・参考ガイドライン ● サステナビリティ経営体制 ● 全従業員が働きやすい職場づくり(ワークライフバランス) |
| Health andwell-being | Health and safety | ●健康経営・ |
| Skills for the future | Training provided | ● ESGデータブック 🗗 |

| Prosperity | | | |
|--|--|--|--|
| Theme Core metrics | | 掲載箇所 | |
| Employment and wealth generation | Absolute number and rate of employment | ● 数字から知るSMBCグループの取組 ┛ ● ESGデータブック ┛ | |
| | Economic contribution | ● 決算関連資料 | |
| | Financial investment contribution | ● 有価証券報告書 🗗 | |
| Innovation of better products and services | Total R&D expenses | ● 有価証券報告書 ■ | |
| Community and social vitality Total tax paid | | ● 決算関連資料 | |

各種方針一覧

各種方針一覧

サステナビリティ

SMBCグループ サステナビリティ宣言 SMBCグループ 環境・社会フレームワーク 社会貢献方針

持続可能な調達方針

責任投資への取組

環境

グループ環境方針 ESGリスクのガバナンス体制・考え方 気候変動対策ロードマップ・アクションプラン

社会

お客さま本位の業務運営に関する基本方針 人権尊重に係る声明 ダイバーシティ&インクルージョンステートメント

ガバナンス

コーポレートガバナンス・ガイドライン

役員報酬の決定方針

コンプライアンス及びリスクに関する基本方針

マネー・ローンダリング及びテロ資金供与対策(AML/CFT)、経済制裁対応に関する方針・取組 プライバシーポリシー

贈収賄の防止及び接待贈答等に関するSMFGグループ規定

グループタックスポリシー

ディスクロージャーポリシー

利益相反管理方針の概要 反社会的勢力に対する基本方針 サイバーセキュリティー経営宣言 個人データ適正利用経営宣言